

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

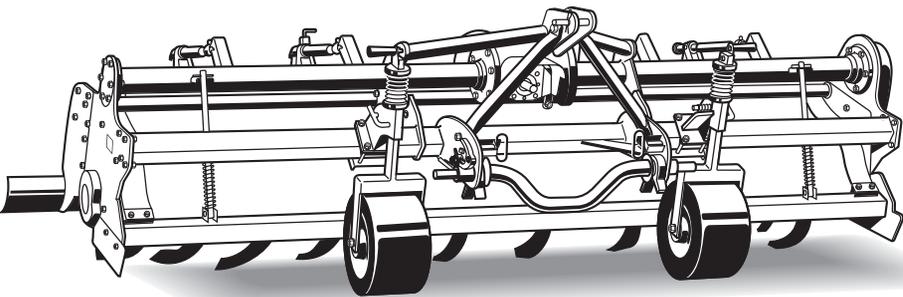
小橋工業株式会社

ハイパーロータリアップカット SUV-0 シリーズ取扱説明書 お役立ちガイド

このたびは作業機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、安全について（→p.4～11）は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず作業機の近くに保管し、いつでも読めるようにしてください。



HYPER

目次

必ず読む▼

はじめに ▶p.2

詳細目次 ▶p.3

安全について ▶p.4

使いかた▼

各部の名称 ▶p.12

開梱・組付け ▶p.13

ジョイントの取付け準備 ▶p.16

トラクタへの装着 0L, 3L, 4L (JIS規格) ▶p.17

トラクタへの装着 2L ▶p.27

移動・圃場への出入り ▶p.34

上手な作業のしかた ▶p.35

耕うん爪の取付け ▶p.41

保守・点検 ▶p.43

消耗品一覧 ▶p.53

アタッチメント一覧 ▶p.54

保管・格納 ▶p.55

必要に応じて▼

主要諸元 ▶p.56

トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS規格) ▶p.59

トラクタ別装着表 2L ▶p.63

フロントウエイト装着表 ▶p.73

異常診断一覧表 ▶p.78

廃棄について/用語解説 ▶p.80

はじめに

作業機を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱方法を理解してください。この取扱説明書は、作業機の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

使用目的・使用範囲

この作業機は水田・畑の耕うん・碎土整地用です。使用目的以外の作業や作業機・部品の改造などは、決してしないでください。故障した場合は、保証の対象になりません。

取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負うことができませんので厳守してください。
 - ・取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
 - ・作業機・部品を改造しないでください。
 - ・操作・保守作業は、通常必要とされる注意または用心をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、作業機の本体に貼り付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。したがって、この取扱説明書に記載した警告や指示を守ることにより安全性は向上します。
また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの作業機を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。

貸出時および譲渡時の注意

- 作業機を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を作業機に添付してお渡しください。
- この作業機は国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が異なるため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

取扱説明書について

- この取扱説明書は、作業機の組み立て、操作、および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は作業機の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この作業機とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。
また、作業機内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。当社の事前の文書による同意なしに、この取扱説明書の全体もしくは部分的にも複製、翻訳しないでください。また、読み取り可能な電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報が必要となる場合や、ご質問などがある場合、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合わせください。

詳細目次

はじめに	2
詳細目次	3
安全について	4
警告表示について	4
安全に作業するために	4
道路走行時の注意	9
警告表示ラベルの種類と位置	10
サービスと保証について	11
各部の名称	12
本体	12
開梱・組付け	13
注意事項	13
開梱	13
同梱品の確認	13
ジョイントの取付け準備	16
注意事項	16
切断方法	16
トラクタへの装着 0L, 3L, 4L (JIS 規格)	17
注意事項	17
装着前の準備	17
セフティカバーの取付け	21
トラクタへの装着	21
装着後のトラクタとの調整	24
トラクタからの取外し	25
トラクタへの装着 2L	27
注意事項	27
装着前の準備	27
トラクタへの装着	29
装着後のトラクタとの調整	31
トラクタからの取外し	32
移動・圃場への出入り	34
注意事項	34
上手な作業のしかた	35
注意事項	35
作業速度と耕うん軸回転速度	35
作業深さの調整	38
エプロンの調整	38
圃場の回りかた	40

耕うん爪の取付け	41
注意事項	41
耕うん爪について	41
保守・点検	43
注意事項	43
保守・点検の準備	43
保守・点検一覧表	44
作業内容	45
消耗品一覧	53
アタッチメント一覧	54
保管・格納	55
主要諸元	56
トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS 規格)	59
SUV T-4L/3L 仕様	59
トラクタ別装着表 2L	63
SUV -2L 仕様	63
SUV300 -2L 仕様	69
フロントウエイト装着表	73
T-0L/3L/4L	73
2L	74
異常診断一覧表	78
廃棄について	80
注意事項	80
用語解説	80

必ず読む

はじめに／詳細目次

安全について

ここに示した注意事項は、作業機を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

警告表示について

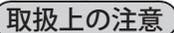
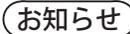
警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載しています。

 危険	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害の可能性が高いことを意味します。
 警告	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害を負う恐れがあることを意味します。
 注意	誤った取扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。

その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

 取扱上の注意	誤った取扱いをしたときは、作業機が故障する可能性があることを意味します。
 お知らせ	作業機本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

絵表示

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。

	禁止（してはいけないこと）を示します。
	強制（すること）を示します。
	注意を示します。

安全に作業するために

全般

危険



禁止

使用目的以外の作業や作業機・部品の改造をしないでください。
* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

取扱説明書はいつでも読めるように、作業機と一緒に大切に保管してください。
* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



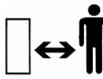
必ず実行

取扱説明書をよく読み、作業機・部品の使いかたを理解してから使用してください。
トラクタの『取扱説明書』も併せてよく読んでください。
* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

操作、作動しているときは周りの人はもちろん、本人も作業機から離れ、且つ周囲との距離が十分ある状態で行ってください。
* 作業機に挟まれ、事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

故障・異常に気付いたら、直ちに作業を中止し、修理してから使用してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



警告



禁止

適応トラクタ以外には装着しないでください。
主要諸元表を熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。
* 特にトラクタ馬力が小さい場合、トラクタとの重量バランスが悪くなり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告



禁止

次のような状態では、運転しないでください。

- ・飲酒運転
- ・いねむり運転
- ・病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ・若年者
- ・妊娠中の方



作業機の操作に熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機を他人に貸出す場合は、取扱説明書も添付し正しい取扱いを指導してください。

- * 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。

ボタンもキチンととめてください。

- * 回転部分に巻き込まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



必ず実行

共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底してください。

- * 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。



作業前点検

⚠ 注意



必ず実行

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

- * 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。



トラクタへの着脱

⚠ 警告



必ず実行

トラクタと作業機の着脱の際は、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、トラクタは必ずブレーキで止めてください。

- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機の着脱・調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。

特に夜間の作業機の着脱は、適切な照明を用いてください。

- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

取付け各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。

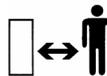
- * 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

作業機の着脱は、基本的に一人で作業を行ってください。

- * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



必ず実行

二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

- * 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

ジョイントのノックピンが確実にPTO 軸溝、または作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

- * ジョイントが抜け、事故・ケガにつながる恐れがあります。



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。

- * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



カバーの取付け

⚠ 危険

! ジョイントなど、作業機のカバー類は必ず取付けてください。

必ず実行 * 巻き込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラクタへの装着

⚠ 危険

! 作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

- 必ず実行
- ・トラクタの前輪に最低限 20% 以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。
 - ・作業機に泥が付着して重くなる場合があるので、泥を取除いてください。
 - ・アタッチメントなどを取付けて使用する場合も、バランスを確認しフロントウエイトを取付けてください。
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
作業機を装着すると、重量バランスが変わります。



⚠ 注意

! 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの『取扱説明書』をよく読んでください。

必ず実行 * 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。



トラックへの積み・降ろし

⚠ 危険

⊘ 途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないでください。低速で積み・降ろししてください。
禁止 * 転倒などで事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! 積み・降ろしの場所は、平坦で安全な場所で行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! アユミ板は、滑り止めの付いている丈夫なものを使用してください。
必ず実行 確実に固定し、傾斜角度、平行度を確認してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! 積み・降ろしの際は、トラックが移動しないようしっかりとサイドブレーキをかけてください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪ないようにしてください。
必ず実行 * ブレーキが片ぎきし、転倒などで事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! 作業機を装着しての積み・降ろしは泥の付着などにより、トラクタの重量バランスが変わることがあるので注意してください。
注意 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



! 積み・降ろしの際、折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンも折りたたみ、トラックの荷台からはみ出さないように注意してください。
注意 また、強度が十分あるロープで確実に固定してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



一般走行

⚠ 危険



禁止

高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

周囲の人やものに注意して旋回してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



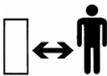
⚠ 警告



禁止

トラクタ・作業機には、運転者以外の人を乗せないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

走行するときは次のことを守ってください。

- ・左右のブレーキペダルを連結すること
 - ・作業機の回転を止めること
 - ・作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをすること
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

坂道での走行は次のことを守ってください。

- ・クラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないこと
 - ・スピードを落とし、低速で走行すること
 - ・エンジブレーキを使用し、急ブレーキをかけないこと
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意

作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は注意してください。

移動時は、作業機の折りたたみ箇所は折りたたみ走行してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



注意

路肩に草が茂っている場所を走行するときは、路肩の強度に気を付けてください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



圃場への出入り

⚠ 警告



必ず実行

圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

圃場の出口が傾斜している場合は、バックして上がるか、または丈夫なアユミ板を使用してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

うねや段差に対しては、作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず読む

安全について

作業中

⚠ 危険



必ず実行

いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告



禁止

作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

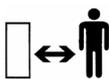


禁止

作業中は、周りに人を近寄らせないでください。

特に子供には十分注意すること。補助作業者がいる場合は、動作ごとに合図をかわすこと。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



禁止

回転部分など、動くところには触れないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が絶たれていることを確認してから作業してください。

・ 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき

・ 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



禁止

作業機のカバーは、取外さないでください。

* 土礫が飛散するため、ケガにつながる恐れがあります。



取扱上の注意

・ ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないでください。

牽引点を低くし、他の車に引き上げてもらってください。

故障につながる恐れがあります。

⚠ 警告



必ず実行

作業機の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

- ・ トラクタの駐車ブレーキをかける
- ・ エンジンを停止する
- ・ PTO 軸への動力の伝導が絶たれている
- ・ 油圧ロックを行う

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

点検のために外したカバー類は、必ず元どおりに取付けてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



禁止

ラジエータやマフラには触れないでください。

* 火傷をする恐れがあります。



必ず実行

点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い正しい使用をしてください。

* 整備不良で事故・ケガにつながる恐れがあります。



トラクタ停車

⚠ 警告



必ず実行

傾斜している場所に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 注意



必ず実行

平らな場所に止め、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



その他

⚠ 警告



必ず実行

作業機指定の PTO 回転速度を守ってください。

* 低速回転用の作業機を高速回転で使用すると、作業機が異常作動し事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

トラクタのエンジン始動時は、周りに人がいないか、作業機が下がっているか確認してください。

* 作業機が不意に下がり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



道路走行時の注意

運転免許について

特定小型特殊自動車(全幅 1.7m 以下、全高 2.0m 以下、全長 4.7m 以下、且つ最高速度 15km/h 以下のトラクタ)であっても、作業機を装着したときに何れかの寸法を超える場合は、大型特殊自動車の運転免許(「農耕用に限る」を含む)を取得している必要があります。

作業機について

トラクタに作業機を装着して道路走行する場合は、道路運送車両法の保安基準を満たしていなければなりません。

トラクタと作業機の組合せで保安基準を満たす処置を行うことで道路走行できるようになります。詳細内容については一般社団法人日本農業機械工業会ホームページに掲載の『作業機付きトラクタの公道走行ガイドブック』を参照してください。

※ 一般社団法人

日本農業機械工業会ホームページアドレス

<http://www.jfmma.or.jp/>

より詳しい情報を必要とする場合や、ご質問がある場合は、当社にお問い合わせください。特に反射ラベルなどの法律で表示義務のあるものは道路走行する前に運行前点検を行い、汚損や破損していれば必ず表示内容が他の車両や歩行者から確認できるように処置してください。

トラックでの運搬

⚠ 危険



必ず実行

作業機をトラックで運搬する際は折りたためる箇所は折りたたんでください。また、作業機が動かないように強度が十分あるロープで確実に固定してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

積み・降ろしの際、落下防止措置を行ってください。

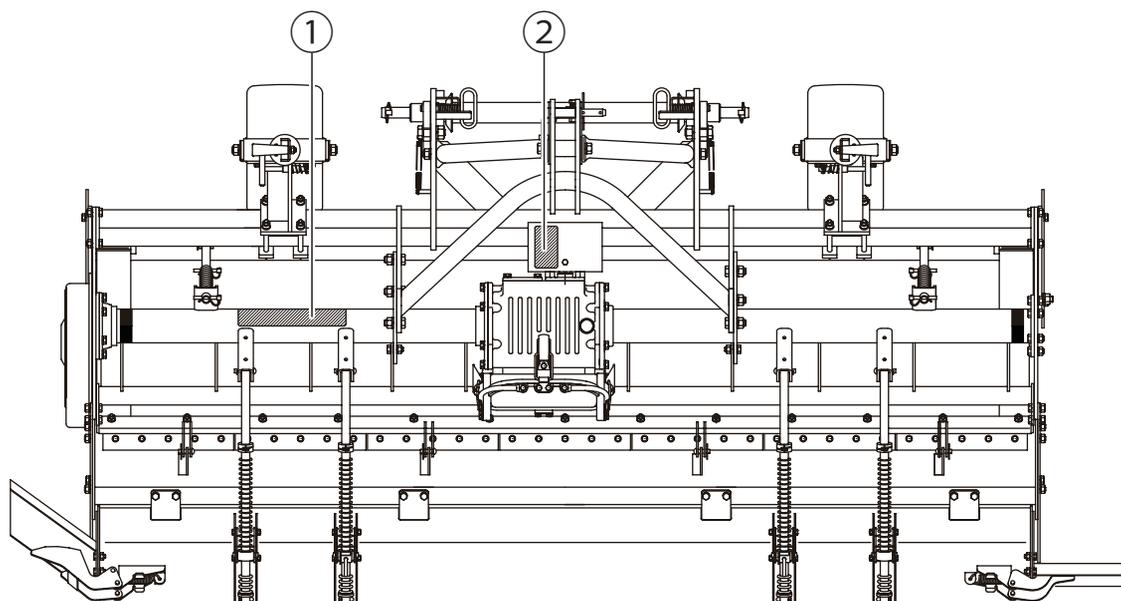
* トラックのあおりを不用意に開けると作業機が滑り落ち、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



警告表示ラベルの種類と位置

この作業機には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解した上で作業してください。

- いつも汚れや泥をとり警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- 警告表示ラベルが損傷したり破損したときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。



① コードNo. 9994463

危険	警告	注意
<ul style="list-style-type: none"> ●セーフティカバーは、常に装着して使用してください。 ●エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。 ●巻き込まれて死傷するおそれがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。 ●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。 ●P-1列の回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。 	<p>使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に立たないでください。 ●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 ●作業機の上に人を乗せないでください。 ●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。 ●また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。 ●ジョイントのノブが確実にロックされていることを確認してください。
9994463		

② コードNo. 9992126

危険
<ul style="list-style-type: none"> ●セーフティカバーは、常に装着して使用してください。 ●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。
9992126

サービスと保証について

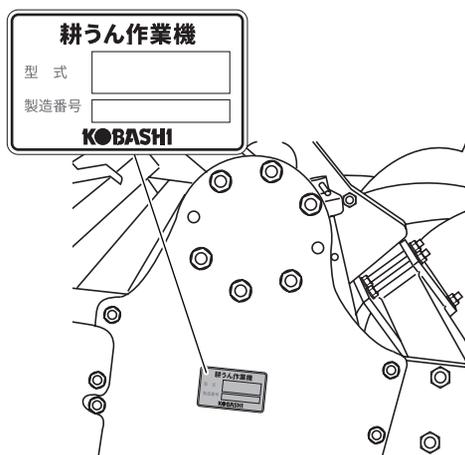
保証書

この作業機には保証書を添付しています。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービス

作業機の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店まで連絡してください。

- お客様名
- 作業機の型式と製造番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。したがって、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や作業機の寿命を短くする原因になります。また、部品の改造はしないでください。

型式について

本書では、同じシリーズの型式の作業機について併記しています。

お買いあげいただいた作業機の型式名を保証書および型式ラベルで確認し、該当箇所をお読みください。

各部の名称

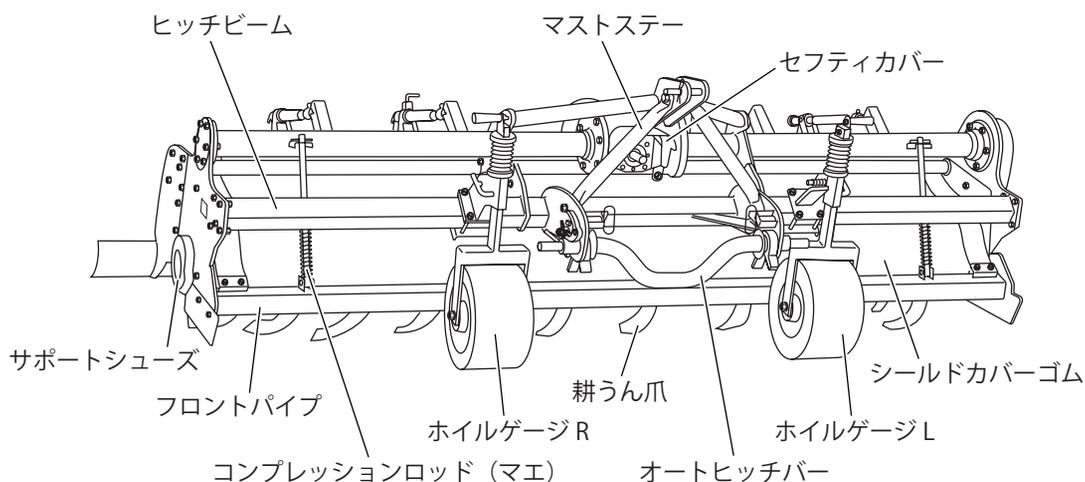
本書では、0L, 3L, 4L 仕様と 2L 仕様を併記しています。お客様が購入された作業機の型式を確認し、該当箇所をお読みください。

作業機本体の各部の名称と前後左右の定義を記載しています。

本体

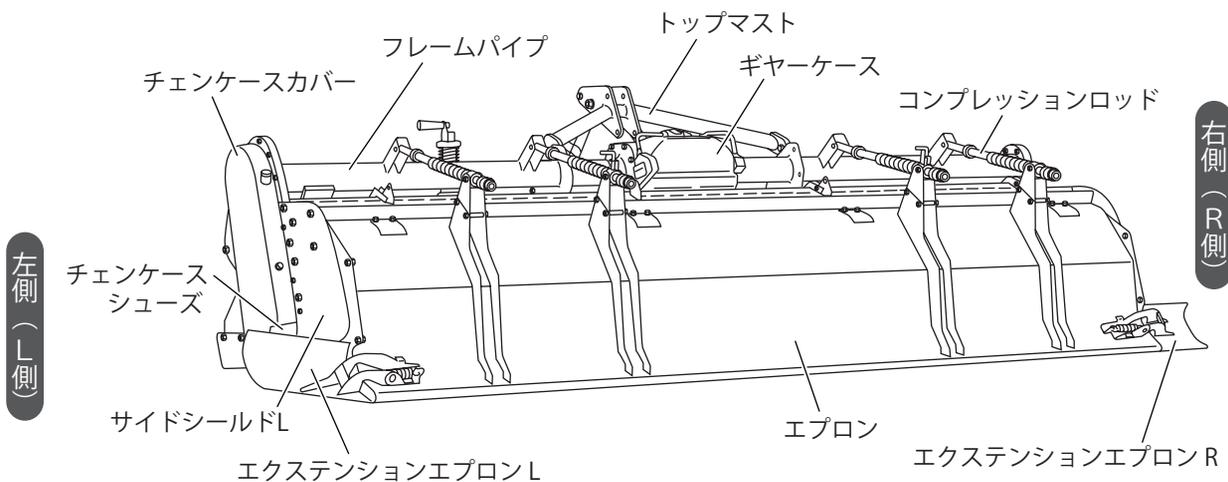
■ 前面（トラクタとの接続側）

0L, 3L, 4L 仕様の場合、オートヒッチバーはありません。



■ 背面

前側（トラクタ側）



後側（作業機側）

開梱・組付け

以下の手順で開梱・組付けします。

注意事項

⚠ 注意

! 作業は平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

! 開梱・組付けするときは、丈夫な手袋を着用して行ってください。

必ず実行 木枠梱包には、スクリューネジが使用されています。ネジの踏み抜きなどないように注意して開梱・組付けしてください。

* ケガにつながる恐れがあります。

! 『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けを行ってください。

必ず実行 * 作業手順を誤ると、作業者がケガをしたり作業機が転倒したりする恐れがあります。

! リフトやクレーンの操作は資格を持った人が行ってください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

開梱

作業機は木枠梱包されていますので、開梱してください。

同梱品の確認

万一、足りないものや損傷しているものがある場合は、速やかにお買い求めの販売店まで連絡してください。

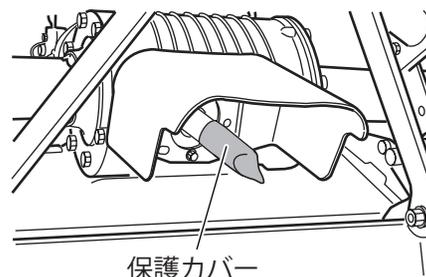
< 付属品 >

部品名	数量	摘要
トップマスト	1	
マストステー	2	
ジョイント	1	2L、3L、4Lのみ
オートヒッチアーム	1	3L、4Lのみ
2点オートヒッチバー	1	2Lのみ
ジョイントハンガ	1	2Lのみ
取扱説明書	1	本書
品質保証書	1	

保護カバーの取外し

取扱上の注意

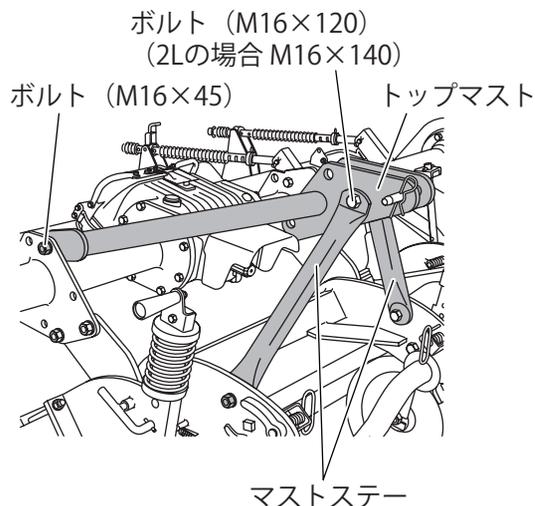
- 入力軸の保護カバーを必ず取外してください。外さないで使用すると、破損につながる恐れがあります。



トップマスト、マストステーの取付け

■ SUV200 ~ 280 の場合

- 1 フレームのブラケット（左右）に仮止めしてあるボルト（M16×45）を取外します。
- 2 メガネレンチ（24）を使用して、**1**で取外したボルト（M16×45）でトップマストを取付けます。
（締付トルク：174.4 N・m）
- 3 メガネレンチ（24）を使用して、マストステーを取付けます。

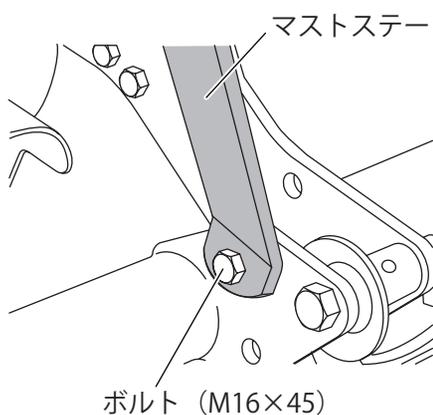


使いかた

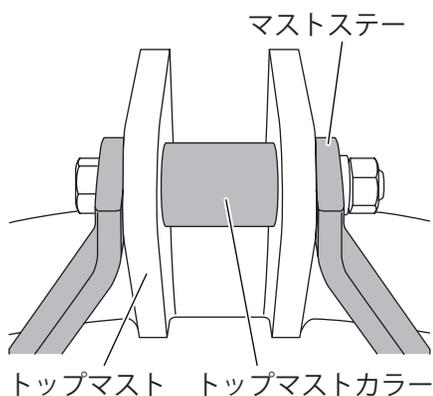
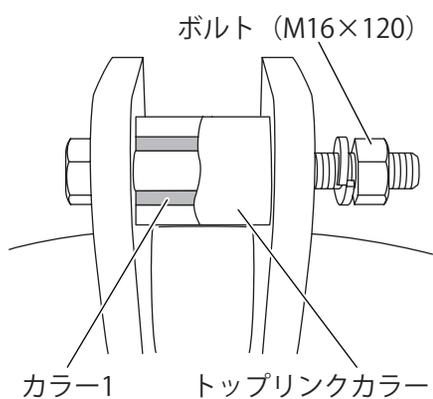
各部の名称／開梱・組付け

(a) 4L・3Lの場合

マストステーとヒッチプレート（左右）への取付けは、上側の穴を使用し、ボルト（M16×45）で取付けます。
（締付トルク：177.4 N・m）



トップマストとマストステーは、ボルト（M16×120）を使用して2個のカラーをはさんで1か所で取付けます。
（締付トルク：177.4 N・m）

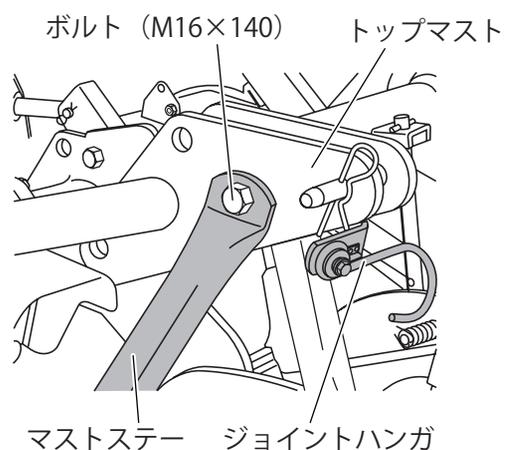


(b) 2Lの場合

マストステーとヒッチブラケットをボルト（M16×45）で取付けます。
（締付トルク：177.4 N・m）

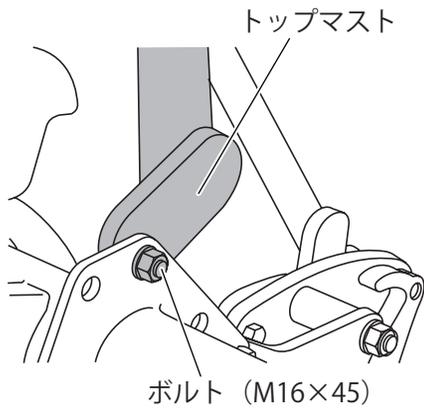


トップマスト、マストステー、ジョイントハンガをボルト（M16×140）で取付けます。
（締付トルク：166.6 N・m）

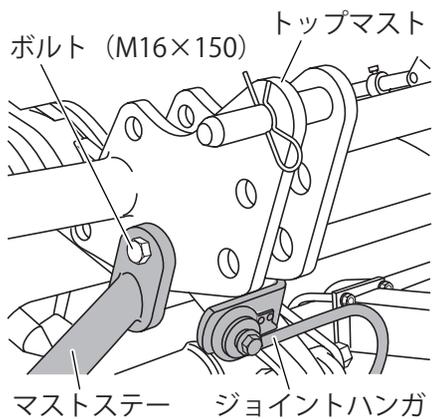


■ SUV300-2L の場合

- 1 フレームのブラケット（左右）に仮止めしてあるボルト（M16 × 45）を取外します。
- 2 メガネレンチ（24）を使用して、1で取外したボルト（M16 × 45）でトップマストを取付けます。
（締付トルク：177.4 N・m）



- 3 マストステーとヒッチブラケットをボルト（M16 × 55）で取付けます。
（締付トルク：177.4 N・m）
- 4 トップマスト、マストステー、ジョイントハンガをボルト（M16 × 150）で取付けます。
（締付トルク：166.6 N・m）



ジョイントの取付け準備

トラクタによっては、標準のジョイントが長い場合があります。
以下の手順で、ジョイントの取付け準備を行ってください。

注意事項

取扱上の注意

- 長過ぎるジョイントを装着すると、トラクタの PTO 軸と作業機の入力軸を突き、破損させます。
- 短過ぎるジョイントを装着すると、ジョイントの噛み合わせが不足して、チューブが破損します。

切断方法

⚠ 注意

! 高速カッタを使用する場合は、十分注意して作業してください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

! 高速カッタ、または金ノコを使用する場合は、手袋を着用してください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

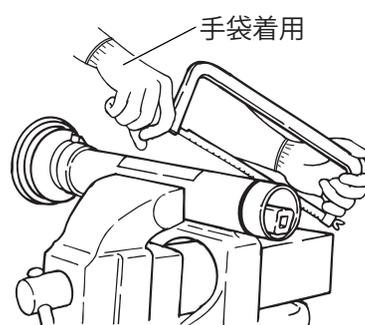
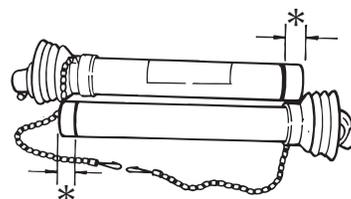
! ジョイント切断時にセフティカバーを取外した場合は、ジョイントに取付けてください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

取扱上の注意

- ジョイント切断寸法は、「トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS 規格)」(→ p.59)、「トラクタ別装着表 2L」(→ p.63) で確認してください。

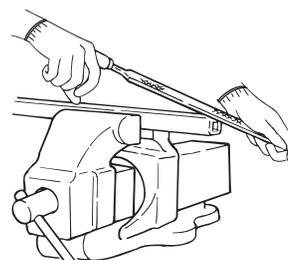
- 1 長い分だけセフティカバーを金ノコ、またはカッタでオス、メス両方切断します。(*)



- 2 切りとったセフティカバーと同じ長さで、チューブシャフトを金ノコ、またはカッタでオス、メス両方切断します。



- 3 切り口をヤスリでなめらかにして、切り粉を取除きます。



- 4 グリスを塗布して、オス、メスを組合せます。

トラクタへの装着 0L, 3L, 4L (JIS 規格)

トラクタへの装着と取外しについて記載しています。

注意事項

⚠ 警告

! 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

! 作業機の着脱は、基本的に一人で作業を行ってください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

! トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。
注意 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

! 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

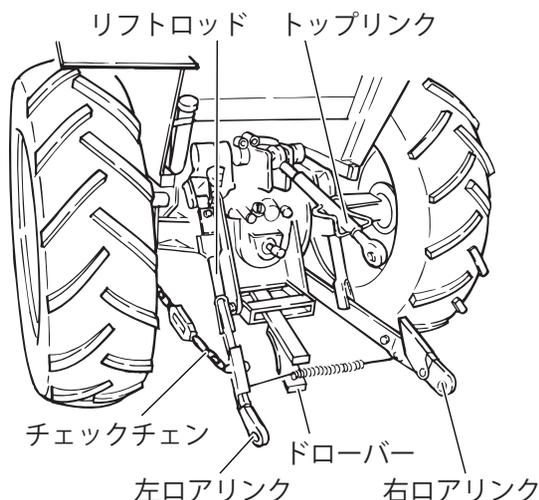
! 二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れがあります。

装着前の準備

トラクタの準備

本機の装着方法は、標準 3 点リンク式のヒッチです。ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS 規格)」(→ p.59) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。



オートヒッチアームの取付け

⚠ 危険

! 必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

! オートヒッチアームは、JIS 規格に準拠したものを使用してください。
必ず実行 類似規格のものは、使用しないでください。
* 故障し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

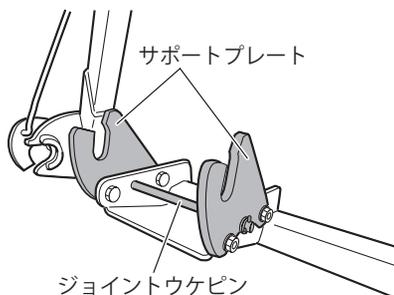
使いかた

ジョイントの取付け準備 / トラクタへの装着 0L, 3L, 4L (JIS 規格)

1 オートヒッチアームの状態を確認します。

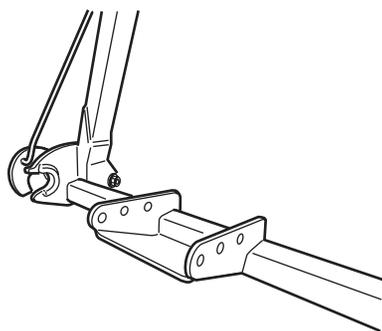
(a) 4 セットの場合

サポートプレートとジョイントウケピンが確実に取付けてあることを確認します。



(b) 3 セットの場合

サポートプレート、ジョイントウケピンがないことを確認してください。



2 トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアリンクをいっぱいまで下げます。

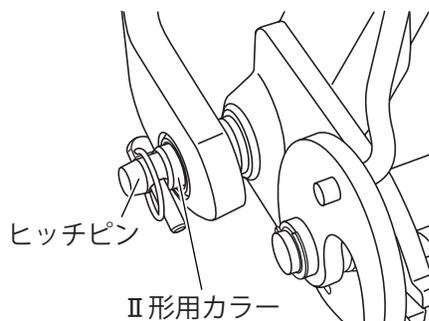
3 左右のロアリンクにオートヒッチアームのヒッチピンを取付けます。

お知らせ

- トップリンクの長さは、装着表の長さに合わせてください。
- トラクタによっては、内側セットと外側セットがあります。「トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS 規格)」(→ p.59) で確認してください。
- 取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。

< ヒッチピンが外向きの場合 >

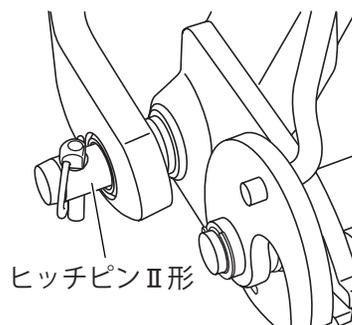
(a) トラクタのロアリンクの穴がⅡ形、ヒッチピンがⅠ形の場合



取扱上の注意

- ヒッチピンにⅡ形用カラーを挿入してください。

(b) ロアリンクの穴がⅡ形、ヒッチピンがⅡ形の場合



< ヒッチピンが内向きの場合 >

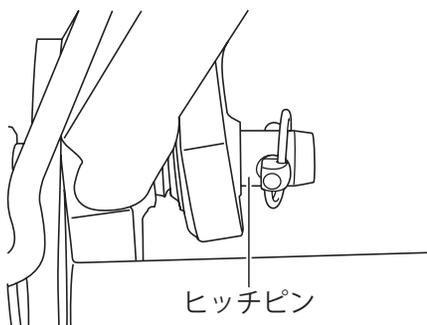
(a) トラクタのロアリンクの穴がⅡ形、ヒッチピンがⅠ形の場合



取扱上の注意

- ヒッチピンにⅡ形用カラーを挿入してください。

(b) ロアリンクの穴がⅡ形、
ヒッチピンがⅡ形の場合



- 4** オートヒッチアームをトラクタのトップリンクに取付けます。

注意

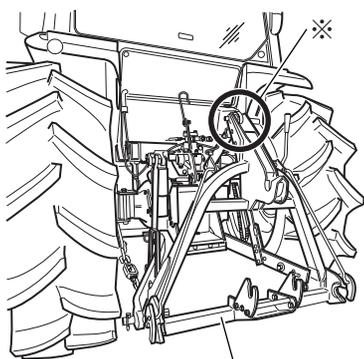


取付け後は、各ピンの抜け止めがされていることを確認してください。

必ず実行 * 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

お知らせ

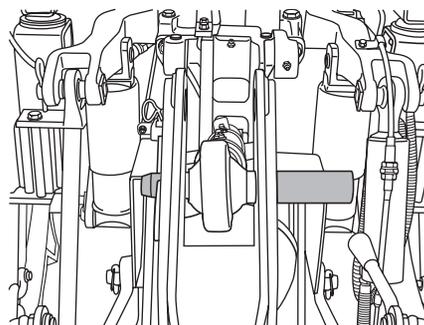
- 取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。トップリンクピンとリンチピン（またはRピン）はトラクタ付属品を使用してください。
- 付属のトップリンクピンは、カテゴリーⅠ、Ⅱ形兼用です。



オートヒッチアーム

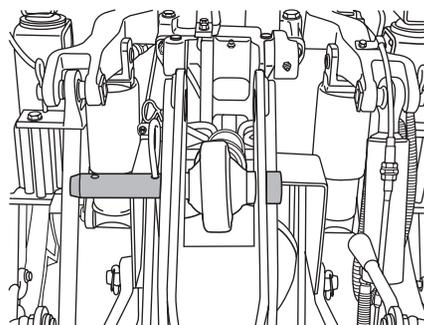
<Ⅰ形の場合>

※拡大図



<Ⅱ形の場合>

※拡大図



ジョイントの取付け (4セットの場合)

⚠ 警告

! ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。

必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

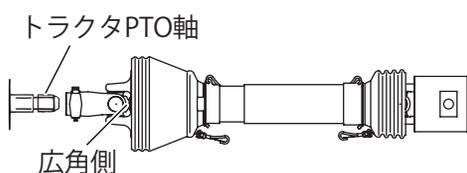
4セットの場合、作業機をトラクタに装着する前にジョイントを取付けます。

お知らせ

- 3セットの場合は、作業機をトラクタに装着した後でジョイントを取付けてください。「ジョイントの取付け (3セットの場合)」(→ p.24)

1 ジョイントの広角側をトラクタの PTO 軸に取付けます。

トラクタ側

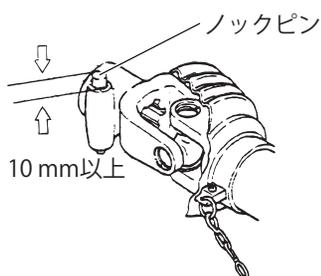


作業機側

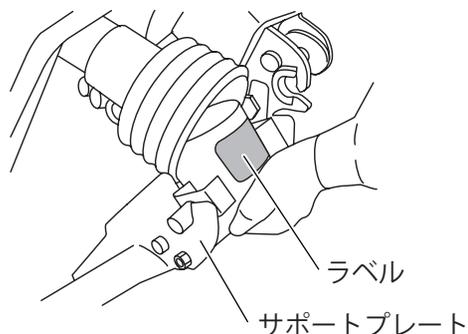
(1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

(2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ノックピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



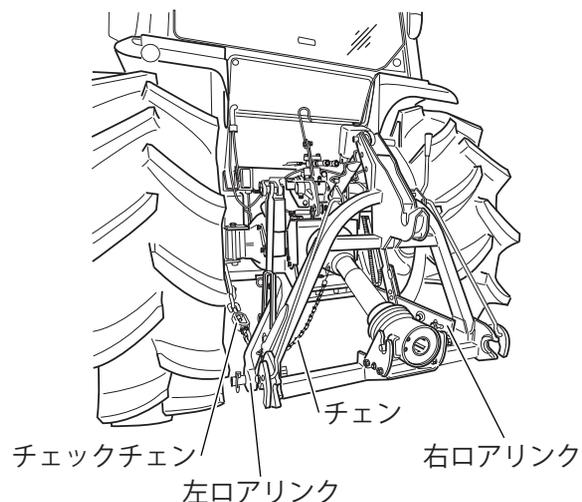
2 ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。



3 ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。

取扱上の注意

- このとき作業機を上げ下げしてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。



4 チェックチェンを張って、オートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせます。また、ロアリンクの左右の高さも均等にします。

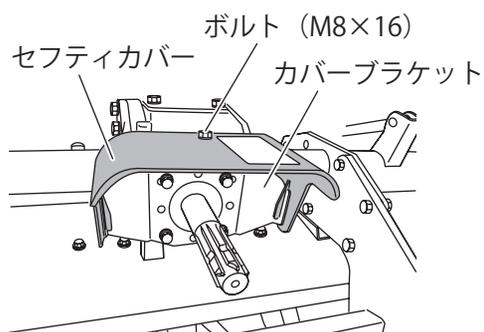
5 各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実にされていることを確認します。

セフティカバーの取付け

⚠ 危険

! セフティカバーは必ず取付けてください。
* 巻き込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。

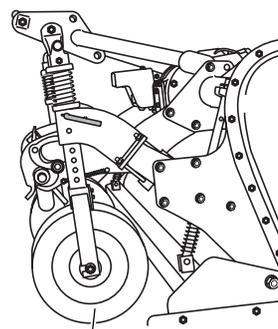
- 1 ボルト (M8 × 16) を使用して、セフティカバーとカバーブラケットを固定します。



トラクタへの装着

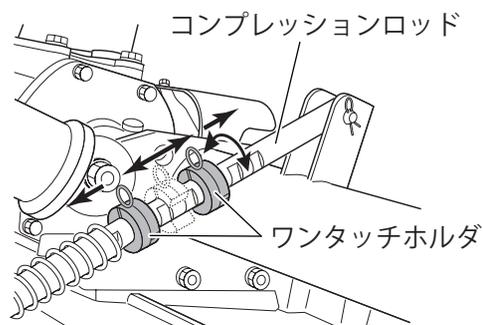
トラクタへの装着

- 1 作業機を装着する姿勢にします。
 - (1) ホイルゲージの穴位置を上から 4 番目～8 番目の位置にします。
⇒ 作業機が前傾姿勢になります。



ホイールゲージ

- (2) コンプレッションロッドの一番下の溝に、ワンタッチホルダをセットします。



取扱上の注意

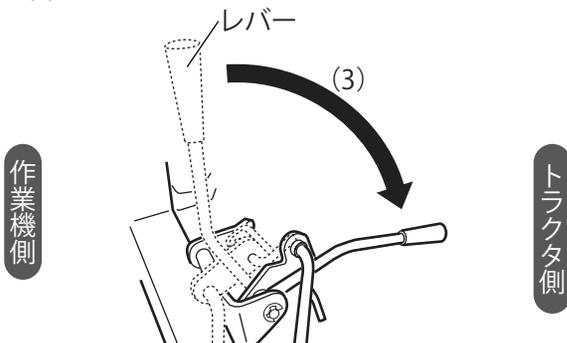
- ワンタッチホルダは、作業に合わせて適切な位置にセットしてください。

2 オートヒッチアームのロックを解除します。

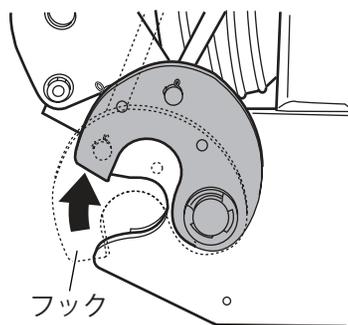
- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。
⇒レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。



⇒オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



⚠ 注意

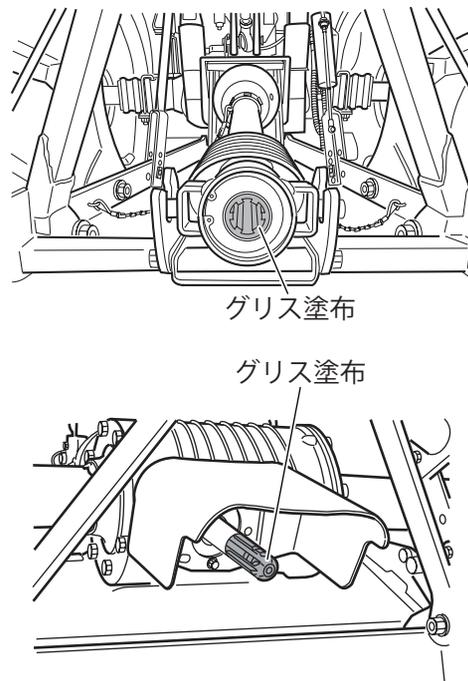
! レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

必ず実行

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

3 4セットの場合は、作業機の入力軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布します。



4 作業機をトラクタに取付けます。

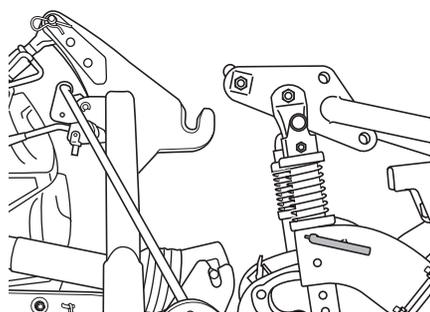
取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。

- (1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。
- (2) オートヒッチアームを下げます。
- (3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。
作業機のマストのピン下側にオートヒッチアームのフックを合わせます。

取扱上の注意

- ・トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



- (4) ポジションコントロールレバーを「上げる」にし、フックに合わせて作業機をゆっくりとリフトアップします。

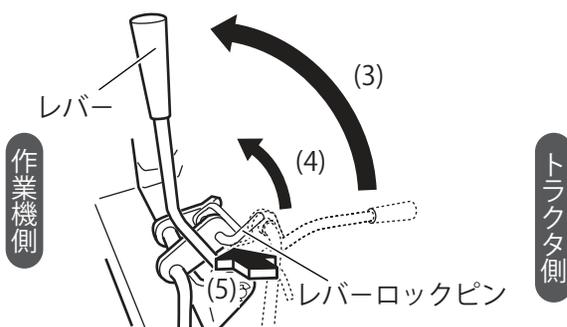
⇒ ジョイントのスプライン部は、自動的に接続されます。

取扱上の注意

- ・ジョイントが噛み合わなかったなどの場合、ポジションコントロールレバーを下げ、一度トラクタを前進させてからやり直してください。
また、トップリンクの長さが適切か確認してください。

5 オートヒッチアームをロックします。

- (1) 作業機のガイドカラーとオートヒッチアームが、しっかりと入っていることを確認します。
- (2) 作業機の入力軸とジョイントのスプラインが、しっかりと入っていることを確認します。
- (3) 確認できたらレバーを上（作業機側）に起こします。
⇒ 作業機とオートヒッチアームがロックされます。
- (4) レバーロックピンをロック方向に回します。
- (5) レバーロックピンがロックされます。
⇒ レバーがロックされます。



取扱上の注意

- ・レバーロックピンは作業中の作業機の誤解放を防止するものです。
作業するときは、必ずロックしてください。

ジョイントの取付け (3セットの場合)

⚠ 警告

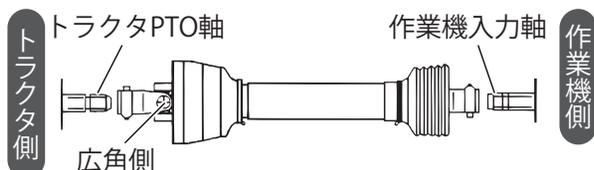
! ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。

必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

3セットの場合、作業機をトラクタに装着した後でジョイント取付けます。

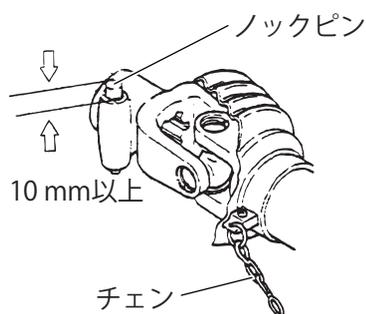
- 1 ジョイントの広角側をトラクタのPTO軸に取付けます。反対側を作業機入力軸に取付けます。



(1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

(2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ・ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ・ノックピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



- 2 ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。

取扱上の注意

- ・このとき作業機を上げ下げしてもチェーンが緊張しないように、たるみを持たせてください。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェンを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を後方より見て直線上に合わせます。
- 2 左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるように左右均等にチェックチェンを張ります。

トップリンクの調整

⚠ 警告

! トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを調整してください。

トップリンクは、「トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS規格)」(→ p.59) を参照してください。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。
- 2 トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

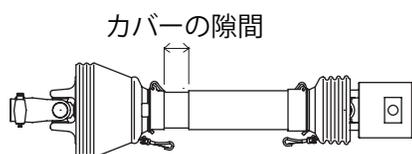
ジョイントの確認

広角ジョイントの場合、ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

- トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。
ジョイントに負荷がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。
この場合、PTO を切るか、回転しても振動や音が出ない位置に作業機の最上位置を規制してください。

- 1 ゆっくり作業機を上げます。
- 2 ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。
- 3 作業機を上下してカバーの隙間が下表の範囲であることを確認します。



ジョイントの種類	ジョイントの切断寸法 (mm)	カバーの隙間 (mm)	
4 セ ッ ト	KGC94M	-	27 ~ 338
	KGC84M	-	27 ~ 238
	KGC79M	-	27 ~ 188
3 セ ッ ト	KGC95	-	30 ~ 373
	KGC90	-	30 ~ 323
	KGC80	-	30 ~ 223
		30	30 ~ 193
	40	30 ~ 183	

トラクタからの取外し

警告



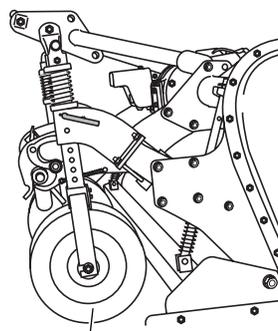
必ず実行

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 トラクタから取外す姿勢にします。

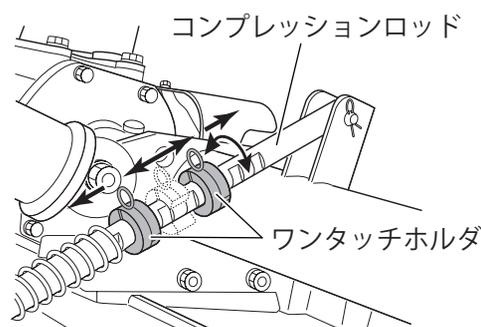
- (1) ホイルゲージの穴位置を作業機をトラクタに装着したときと同じ位置にします。

⇒ 作業機が前傾姿勢になります。



ホイールゲージ

- (2) コンプレッションロッドの一番下の溝に、ワンタッチホルダをセットします。



使
い
か
た

トラクタへの装着 O.L. 3L, 4L (JIS 規格)

2 ジョイントを取外します。(3セットの場合)

⚠ 警告

! ジョイントを取外するときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

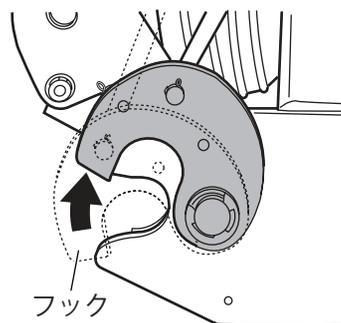
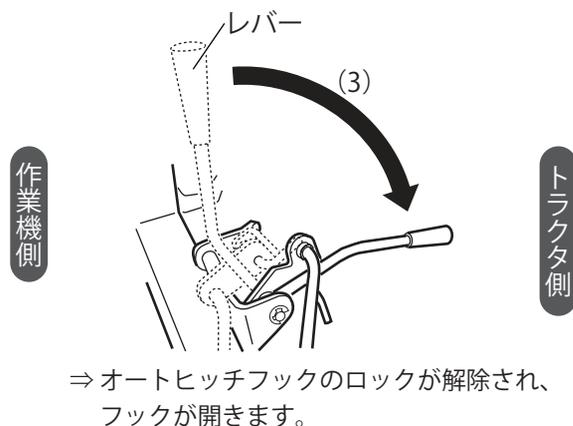
! ジョイントを取外するときは、作業機を接地させてから行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

3 オートヒッチアームのロックを解除します。

- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。
⇒ レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。



⚠ 注意

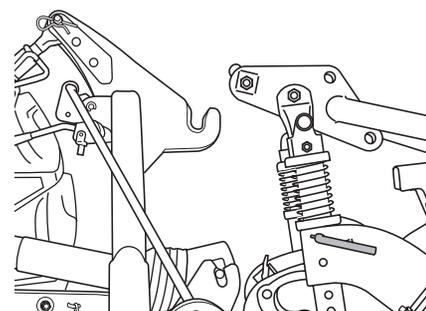
! レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。
必ず実行
干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。
* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

4 作業機を下げます。

- (1) トラクタのPTOの変速をニュートラルにします。
- (2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。
- (3) 作業機を下げ、トラクタをゆっくり前進させます。
⇒ 作業機は外れます。

取扱上の注意

- ・ 外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。動作をやり直してください。



トラクタへの装着 2L

トラクタへの装着と取外しについて記載しています。

注意事項

⚠ 警告



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業機の着脱は、基本的に一人で作業を行ってください。

必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意



夜間の場合は適切な照明を用いてください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



二人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

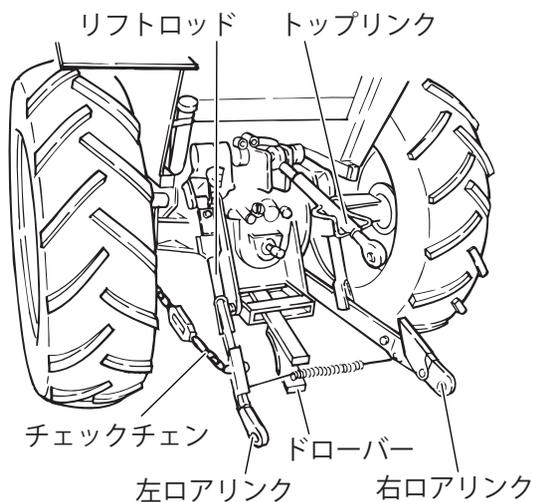
必ず実行 * 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れがあります。

装着前の準備

トラクタの準備

本機の装着方法は、標準3点リンク式のヒッチです。ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表 2L」(→ p.63)を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。



使いかた

トラクタへの装着 2L

オートヒッチバーの取付け

⚠ 危険



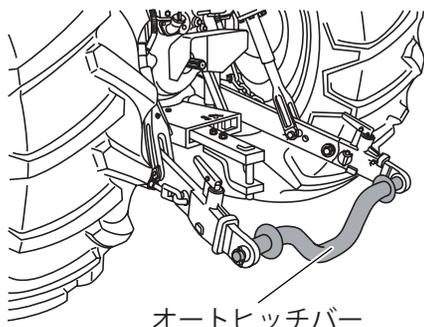
必ず実行

必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアリンクをいっぱいまで下げます。

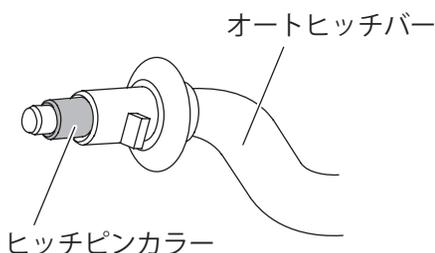
- 2 オートヒッチバーをトラクタのロアリンクに取付けます。



オートヒッチバー

取扱上の注意

- ・オートヒッチバーはカテゴリーⅡ形です。カテゴリーⅢ形のトラクタに取付ける場合は、付属のヒッチピンカラー（SUV300のみ）をオートヒッチバーに取付けてください。



ヒッチピンカラー

- ・カテゴリーⅢ形のトラクタに取付ける場合、ロアリンクとトラクタミッションが干渉しないか注意してください。

ジョイントの取付け（作業機側）

⚠ 警告

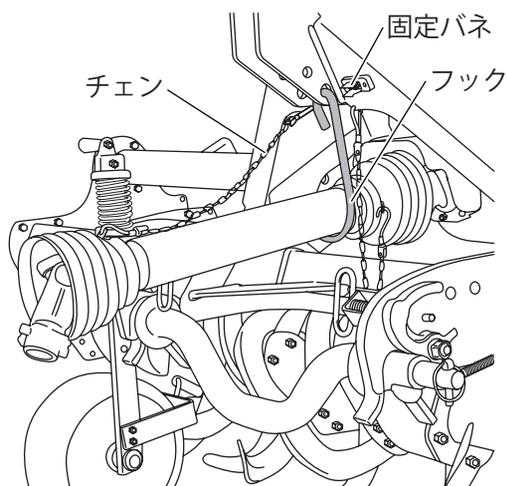


必ず実行

ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

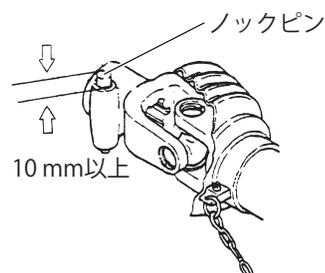
- 1 ジョイントのスライド部が抜けないように、2本のチェンを連結します。
- 2 ジョイントハンガのフックを固定バネから取外して、下げます。
- 3 ジョイントの OUTER 側をフックに乗せ、作業機側の入力軸に取付けます。



- (1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

- (2) ノックピンの取付け状態を確認します。

- ・ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ・ノックピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



トラクタへの装着

トラクタへの装着

⚠ 警告



必ず実行

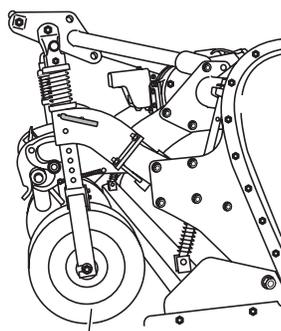
装着作業中、トラクタを止めるときはその都度エンジンを切り、駐車ブレーキをかけてください。

* トラクタと作業機に挟まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 作業機を装着する姿勢にします。

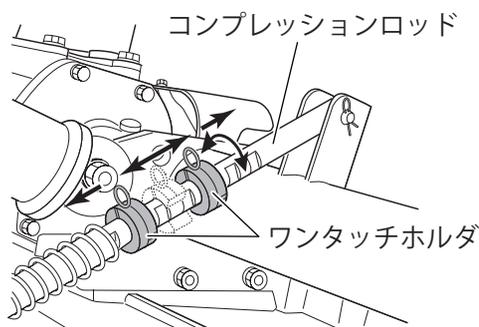
- (1) ホイルゲージの穴位置を上から1番目～8番目の位置にします。

⇒ 作業機が前傾姿勢になります。



ホイールゲージ

- (2) コンプレッションロッドの一番下の溝に、ワンタッチホルダをセットします。



取扱上の注意

- ワンタッチホルダは、作業に合わせて適切な位置にセットしてください。

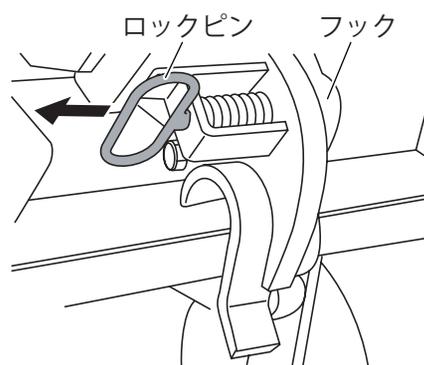
2 オートヒッチフックのロックを解除します。

- (1) ロックピンを引っ張ります。

⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。

ロックピンはオートヒッチバーがドッキングされると、自動的に入り込みロックされます。

- (2) ロックピンを下図の位置にしておきます。



3 作業機をトラクタに取付けます。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。

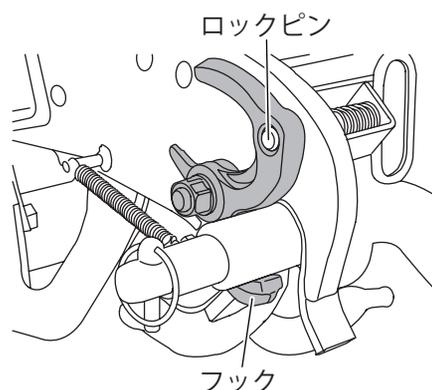
使いかた

トラクタへの装着 21

- (1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。
- (2) オートヒッチバーを下げます。
- (3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。
作業機のヒッチブラケット開口部にオートヒッチバーを取付けます。

取扱上の注意

- ・トラクタと作業機が直角になるようにしてください。
 - ・ジョイントとトラクタが干渉しないようにしてください。
- (4) 装着後、ロックピンが確実にフックに入り込んでロックされているか確認します。



- 4** トラクタのトップリンクを作業機のマストに、付属のトップリンクピンで取付けます。

お知らせ

- ・付属のトップリンクピンは、SUV200～280はカテゴリーⅠ、Ⅱ形兼用、SUV300はカテゴリーⅡ、Ⅲ形兼用です。
- ・トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表 2L」(→ p.63) で確認してください。

ジョイントの取付け (トラクタ側)

警告

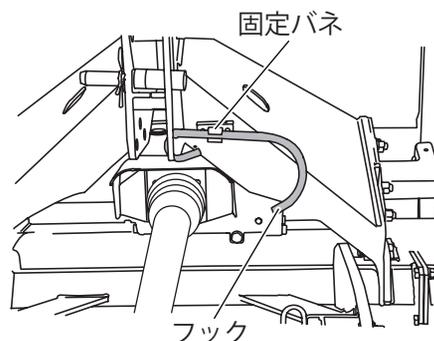


必ず実行

ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1** 抜け止めのために連結していたジョイントのチェンを外します。
- 2** ジョイントハンガのフックをジョイントから取外し、固定バネにはめ込みます。



取扱上の注意

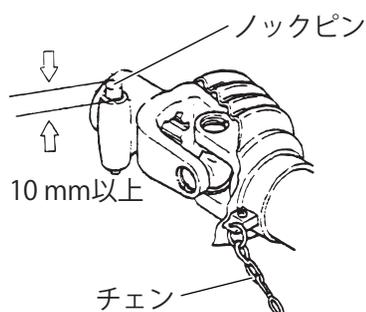
- ・トラクタの PTO 軸にジョイントを取付けるときは、必ずジョイントハンガのフックからジョイントを取外してください。

- 3** ジョイントをトラクタの PTO 軸に取付けます。

- (1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

(2) トラクタ側のノックピンの取付け状態を確認します。

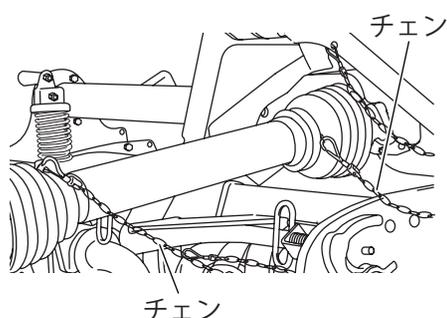
- ・ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ・ノックピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



4 トラクタ PTO 側のジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。

取扱上の注意

- ・このとき作業機を上げ下げしてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



⚠ 注意

- !** 取付け後は、各ピンの抜け止めがされていることを確認してください。
- 必ず実行 * 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェーンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェーンを調整してください。

- 1** 作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上に合わせます。
- 2** 左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるように左右均等にチェックチェーンを張ります。

トップリンクの調整

⚠ 警告

- !** トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。
- 必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

2L の場合は、作業時（標準耕深時）に PIC シャフトが水平になるように調整してください。

前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを調整してください。

トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表 2L」（→ p.63）を参照してください。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

- 1** 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。
- 2** トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

ジョイントの確認

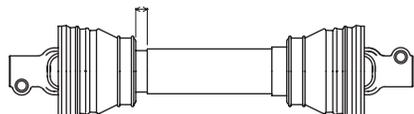
シングルジョイントの場合、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸とが平行に近いほど異音が少なくなります。

取扱上の注意

- トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。
ジョイントに負荷がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。
この場合、PTOを切るか、回転しても振動や音が出ない位置に作業機の最上位置を規制してください。

- 1 ゆっくり作業機を上げます。
- 2 ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。
- 3 作業機を上下してカバーの隙間が下表の範囲であることを確認します。

カバーの隙間



ジョイントの種類	ジョイントの切断寸法 (mm)	カバーの隙間 (mm)
KG97	-	25 ~ 490
KG87	-	25 ~ 390

トラクタからの取外し

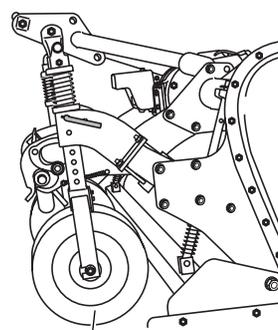
警告



必ず実行

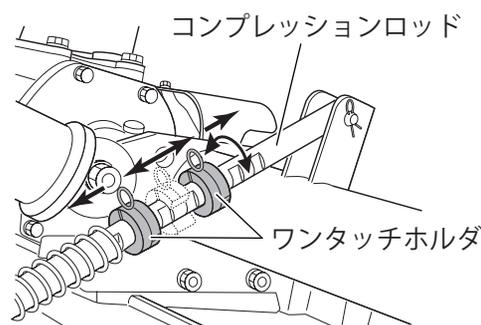
作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 トラクタから取外す姿勢にします。
(1) ホイルゲージの穴位置を作業機をトラクタに装着したときと同じ位置にします。
⇒ 作業機が前傾姿勢になります。



ホイールゲージ

- (2) コンプレッションロッドの一番下の溝に、ワンタッチホルダをセットします。



2 作業機を下げます。

- (1) トラクタ PTO の変速をニュートラルにします。
- (2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。
- (3) 作業機を下げ、接地させます。

ジョイントの取外し（トラクタ側）

1 ジョイントを取外します。

警告

! ジョイントを取外すときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO チェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

! ジョイントを取外すときは、作業機を接地させてから行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- (1) トラクタ PTO 側のセフティーカバーのチェーンを取外します。
- (2) トラクタ PTO 軸側のジョイントのノックピンを押しながら、ジョイントを引き抜きます。
- (3) ジョイントハンガのフックを固定バネから取外して下げ、ジョイントを乗せます。
- (4) ジョイントのスライド部が抜けないように、2本のチェーンを連結します。

2 トップリンクを取外します。

- (1) ホイルゲージが接地し、作業機が安定するまでトップリンクの長さを調整します。
- (2) トップリンクに力がかからなくなったところでトップリンクを取外します。

3 オートヒッチフックのロックを解除します。

注意

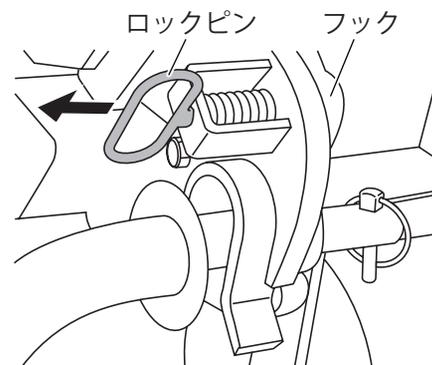


注意

ロックを解除する際は、オートヒッチバーの落下に十分注意してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- (1) ロックピンを引っ張ります。
⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。
- (2) ロックピンを下図の位置にしておきます。



4 作業機をトラクタから取外します。

- (1) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。
⇒ 作業機は外れます。

取扱上の注意

- ・ 外れない場合は、場所が平坦でないなどの原因があります。動作をやり直してください。
- ・ トップリンクを外した状態で、作業機を大きく上下させないでください。作業機が転倒する恐れがあります。

移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を以下に示します。
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

注意事項

⚠ 危険

! トラックへの積み込み、坂の上りに、トラクタの前輪が浮き上がる場合は、フロントウエイトをつけて作業機を下げてください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

! 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。
必ず実行 畦畔が高いときは、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 警告

! 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。
必ず実行 また、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

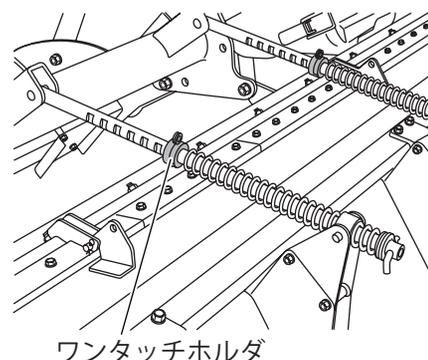
! 前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。
必ず実行 高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

! 移動の際は、エクステンションエプロンをたたんでください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

! 作業機の運搬、またはトラクタへ装着しての移動は、エプロンが上下に揺れないようにゆっくり移動してください。
必ず実行 エプロン調整に使用するワンタッチホルダを、エプロンが揺れない位置まで下げてください。
* 機体が破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。



上手な作業のしかた

ここでは作業のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

注意事項

⚠ 危険



禁止

運転中トラクタと作業機の周囲には、補助作業員や他の人を絶対に近づけないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が絶たれていることを確認してから作業してください。

- ・ 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- ・ 爪軸などへの草やワラのからみ付きを削除するとき

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

傾斜地での急旋回は、ゆっくりと注意して行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意



必ず実行

(SUV300 の場合)

トラクタ PTO 変速設定は 1000rpm に設定してください。

* 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。



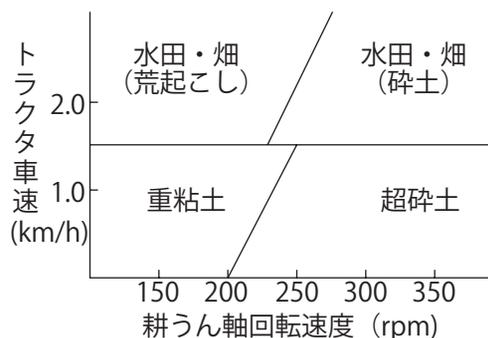
必ず実行

畦畔付近の作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。

* 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

作業速度と耕うん軸回転速度

- (a) 作業目的と土地条件に合わせて、トラクタの車速と耕うん軸回転速度を決めてください。下図は作業の目安として参考にしてください。



- (b) 枕地耕うんは車速を落として耕うんしてください。
- (c) エンジン回転は PTO 変速「1」にて、PTO 軸を回転速度 540 rpm まで上げてください。SUV300 の場合は、PTO 変速を 1000rpm に設定してください。
エンジン回転を落として使用する場合は、PTO 変速を適宜上げて、車速に合った耕うん軸回転速度を確保してください。

取扱上の注意

- ・ 土地条件に応じた作業速度、PTO 軸回転速度、深さを選んでください。
なお、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO 軸回転速度も下げて使用してください。

使いかた

移動・圃場への出入り／上手な作業のしかた

耕うん軸回転速度

この作業機の耕うん軸回転速度は、チェンジギヤーの交換により標準セットで4段（SUV300は2段）の回転速度が選べます。チェンジギヤーケースカバーを外して交換してください。

⚠ 警告

必ず実行 必ずトラクタのエンジンを止め、PTOチェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

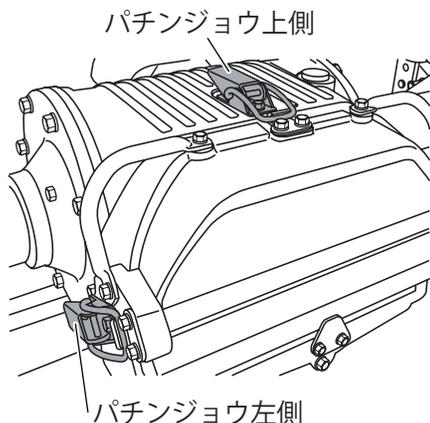
必ず実行 作業後は手で触れないでください。
* オイル温度が80度以上になり、火傷する恐れがあります。

チェンジギヤーケースカバーの開け方

1 パチンジョウの3か所のうち始めに左→右を取外し、その後、上の順に取外します。

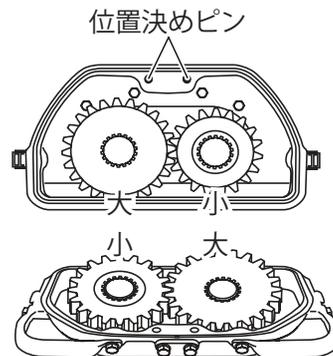
取扱上の注意

- 開けるときは、オイルがあふれないように作業機を前傾にしてください。

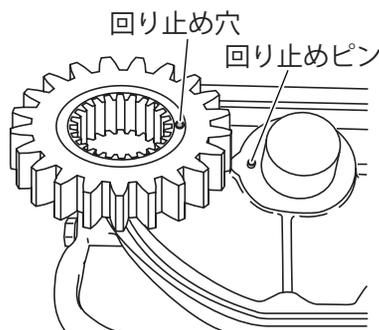


チェンジギヤーの交換方法

1 予備のチェンジギヤーの左右位置は、大きさが組込ギヤーの逆（左が大きい場合は、右に大きいギヤーを入れる）に組み込みます。



2 左側の予備ギヤーは回り止めのピンと穴を合わせて組み込みます。ピンと穴が正しく組み込まれた状態でないと、チェンジギヤーカバーの取付けができません。



チェンジギヤーケースカバーの閉め方

1 パチンジョウの3か所のうち始めに上を固定し、その後、左→右の順に固定します。

取扱上の注意

- 交換後は、パッキンが溝からはみださないように注意してください。
- 2か所の位置決めピンに合わせてチェンジギヤーカバーを取付けてください。

耕うん軸回転速度の選択

■ SUV200 ～ 280

下記の表にトラクタ PTO 軸回転速度が 540 rpm の場合を示します。

トラクタ PTO 回転速度を上げる場合は、耕うん軸回転速度が 140 ～ 450 rpm の範囲に収まるようにチェンジギヤーを交換してください。

ギヤー 組合せ		耕うん軸 回転速度	
A	B		
27	16	149 rpm	
26	17	164 rpm	
25	18	181 rpm	
24	19	198 rpm	○
23	20	218 rpm	
22	21	239 rpm	○
21	22	263 rpm	◎
20	23	288 rpm	
19	24	317 rpm	○
18	25	348 rpm	
17	26	383 rpm	
16	27	423 rpm	

- ◎は標準組込み耕うん軸回転速度
- は予備組込み耕うん軸回転速度
- 空白はオプション

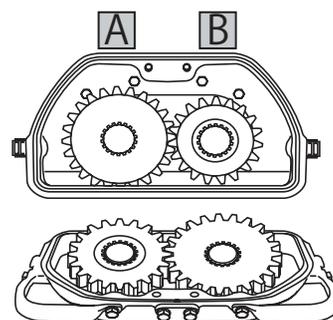
■ SUV300

下記の表にトラクタ PTO 軸回転速度が 1000 rpm の場合を示します。

トラクタ PTO 回転速度を上げる場合は、耕うん軸回転速度が 240 ～ 400 rpm の範囲に収まるようにチェンジギヤーを交換してください。

ギヤー 組合せ		耕うん軸 回転速度	
A	B		
25	18	266 rpm	◎
23	20	321 rpm	○
20	23	×	○
18	25	×	○
26	17	241 rpm	
24	19	292 rpm	
22	21	352 rpm	

- ◎は標準組込み耕うん軸回転速度
- は予備組込み耕うん軸回転速度
- 空白はオプション



取扱上の注意

- SUV300 の場合、チェンジギヤーは A に大きい方、B に小さい方を組んでください。大小を逆に組むと故障につながる恐れがあります。

使
い
か
た

上
手
な
作
業
の
し
か
た

作業深さの調整

作業深さの調整は、ホイールゲージの上下調整、またはトラクタの油圧ポジションコントロールレバーで行ってください。

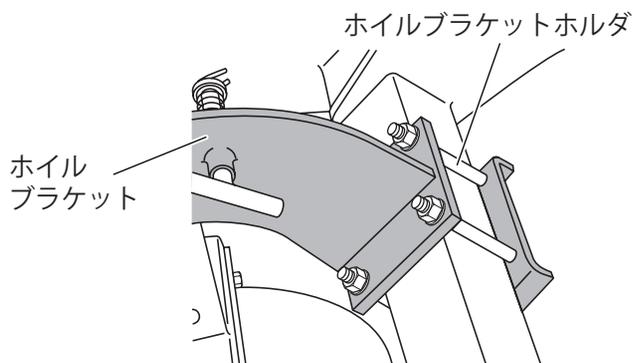
ホイールゲージの調整

耕深を安定させるために、

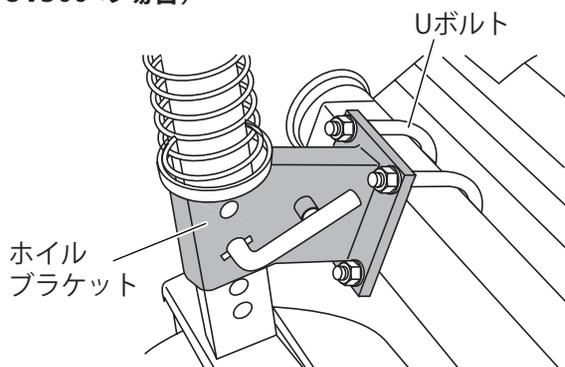
- ホイールブラケットを左右に動かし、トラクタのタイヤトレッドとホイールゲージ位置を調整してください。
- 左右調整はホイールブラケットを取付けているブラケットホルダまたはUボルトのナットを緩めてください。
- 調整後、ブラケットホルダのナットを締めて固定してください。

ホイールゲージ高さを上下に調整して希望の耕深を選びます。ホイールピンをブラケットの上下2個の穴に差し替えることにより、1.5 cm 間隔で耕深を調整できます。

(SUV200 ~ 800 の場合)



(SUV300 の場合)



取扱上の注意

- 左右のホイールゲージ高さは同じにしてください。作業機が傾いたり、作業機が損傷したりする恐れがあります。

エプロンの調整

エプロンを調整することにより使用目的に応じた作業機の性能（仕上がり精度、碎土、反転）を発揮することができます。

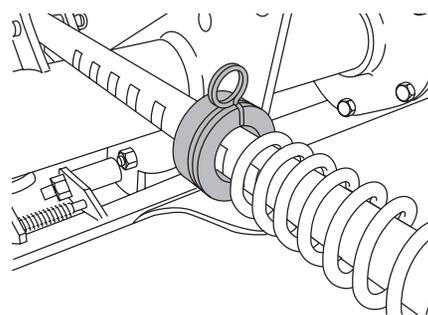
取扱上の注意

- エプロンをはね上げた状態での耕うん作業、路上走行、トラクタとの脱着作業は行わないでください。

ワンタッチホルダの取扱い

■ ロック

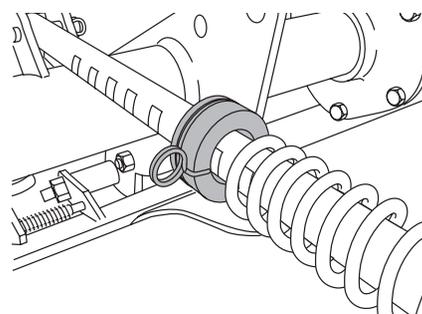
図のようにワンタッチホルダのコイル部分を上方に向けると、コンプレッションロッドの溝にロックされます。



ワンタッチホルダ（ロック状態）

■ 解除

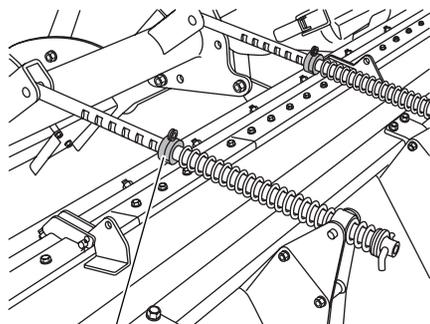
図のようにワンタッチホルダのコイル部分を横に向けると解除され、コンプレッションロッド上を移動させることができます。



ワンタッチホルダ（解除状態）

砕土耕うんの場合

ワンタッチホルダを図のようにセットし、下側のバネをきかせ、エプロンの押さえを強くします。



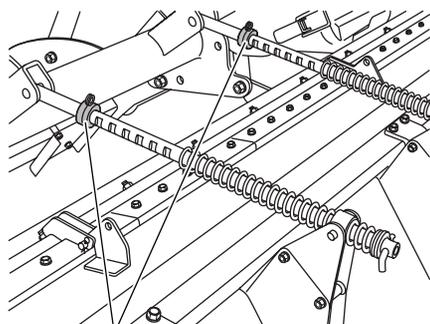
ワンタッチホルダ

取扱上の注意

- 全てのワンタッチホルダ位置は同じにしてください。作業機が損傷する恐れがあります。

石の多い、湿田、粘土質圃場での耕うん

ワンタッチホルダを最上位置まで上げ、上側のスプリングをフリーにし、エプロンを少し上げた状態にすると、土はけがよく所要馬力も少なくなります。



ワンタッチホルダ

エクステンションエプロン

⚠ 注意

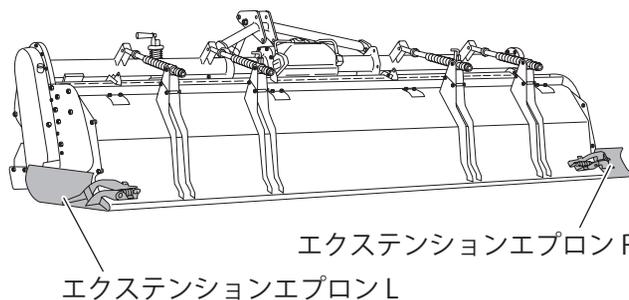


必ず実行

エクステンションエプロンを開くときに、支点まわりで指や手を挟まないようにしてください。

* ケガにつながる恐れがあります。

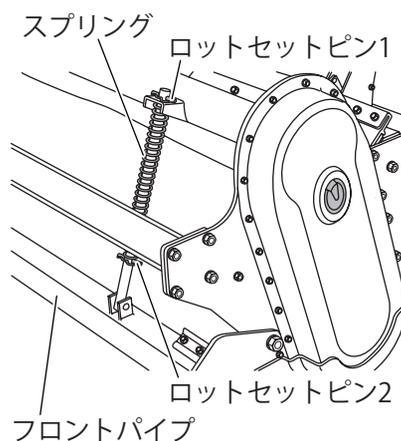
隣接部に盛る土をならす場合などに開いてください。



フロントパイプの調整

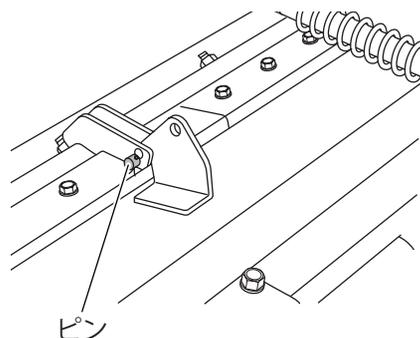
フロントパイプは遊動式です。耕うん時は衝撃を吸収し、作業機の破損を防ぎます。

プラウ後の作業などにおいて、フロントパイプで土塊を押し出してしまう場合には、フロントパイプを適当な高さまで持ち上げ、ロットセットピン1で止めてください。ロットセットピン2は、スプリングが効くようにスプリングの下に差し込んでください。



シールドカバーゴムの調整

フロントパイプの上下調整と同時に、シールドカバーゴムがたるまないようにピンの差し替えを行ってください。

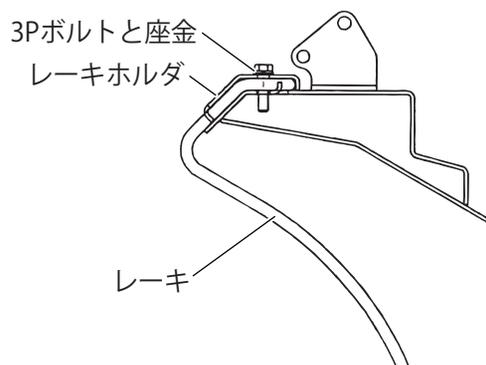


使いかた

上手な作業のしかた

レーキの取替え

レーキホルダは、分割式になっています。万一、レーキが破損したときは、レーキホルダを外してレーキを新品と交換してください。



圃場の回りかた

⚠ 注意



禁止

耕うん作業を行いながらの旋回は行わないでください。

* エプロン両端やエクステンションエプロンが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

旋回を行うときは、作業機を持ち上げてください。

* エプロン両端やエクステンションエプロンが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

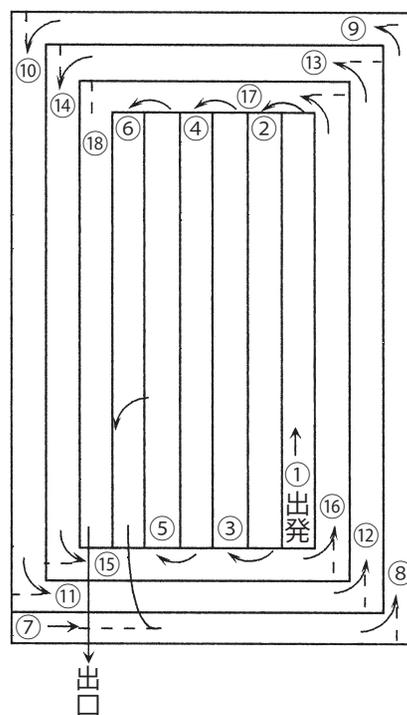


注意

旋回時は周囲の障害物に注意してください。

* エプロン両端やエクステンションエプロンが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

一般的に行われている隣接耕うんです。参考にしてください。畦際耕うんにおいては、サポートハウジングが畦際（チェーンケース側が内側）になる方向で行ってください。



耕うん爪の取付け

耕うん爪が摩耗すると作業状態が悪くなるため、早めに交換してください。
以下の手順で、耕うん爪を交換してください。

注意事項

⚠ 危険



作業機が落下しないよう以下の作業を行ってください。

- 必ず実行
- ・トラクタの駐車ブレーキをかける
 - ・エンジンを停止して油圧ロックを行う
 - ・台などを作業機の下に置く
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。



エプロンをしっかりと固定して、落下しないようにしてから行ってください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。



ボルト、ナットを緩めたり、締付けたりする場合は、メガネレンチが確実に入った状態で作業してください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。



作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

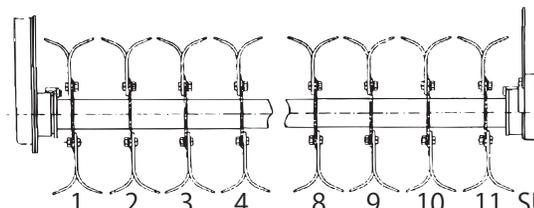
取扱上の注意

- ・爪の交換は、1本ずつ外して同じ形状、同じ刻印の爪を取付けて行ってください。
一度に全部外して交換すると、配列を誤る恐れがあります。
爪の配列を誤ると、異常な振動が発生したり、仕上がりが悪くなったりします。
 - ・爪はしっかりと締付けてください。
M16 ボルト：156.8~192.0 N・m
(1600~1960 kgf・cm)
- 新しく交換した場合は緩みやすいため、作業開始1時間で増し締めをしてください。

耕うん爪について

■ 爪配列

爪配列は山形配列になります。



後方から見た場合

1	2	3	4	8	9	10	11	SUV200
				9	10	11	12	SUV220
				10	11	12	13	SUV240
				11	12	13	14	SUV260
				12	13	14	15	SUV280
				13	14	15	16	SUV300

* 数字は左側からのフランジ番号になっています。

■ 耕うん爪・取付けボルト

型式	耕うん爪 UB2611Z		取付けボルト (P1.5 8T)		フィードカッタ	コガタボルト 2P M10×20 P1.5
	右 (R)	左 (L)	M16×39 組み BT	M16 NT SW		
SUV200	22	22	44	88	2	4
SUV220	24	24	48	96	2	4
SUV240	26	26	52	104	2	4
SUV260	28	28	56	112	2	4
SUV280	30	30	60	120	2	4

型式	耕うん爪 UB2611Z		取付けボルト (P1.5 8T)		フィードカッタ U	フィードカッタ R	M16×37 (P1.5 8T) BT SW
	右 (R)	左 (L)	M16×39 組み BT	M16 NT SW			
SUV300	32	32	64	128	1	1	4

使いかた

耕うん爪の取付け

■ 爪の取付け

左半分と右半分で爪の取付け方法が変わります。
下表により、フランジに爪を取付けてください。

型式	爪	
	左半分	右半分
SUV200	1～5	6～11
SUV220	1～6	7～12
SUV240	1～6	7～13
SUV260	1～7	8～14
SUV280	1～8	9～15
SUV300	1～7	8～16

※数字は左側からのフランジ番号になっています。

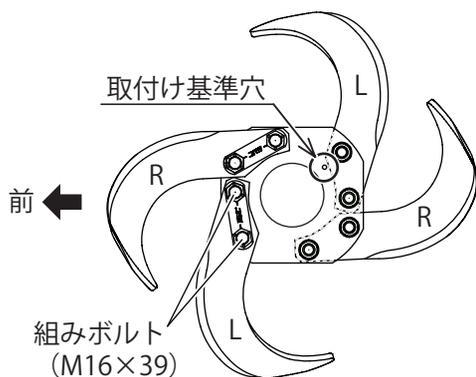
■ 左半分の取付け方法

各フランジにL・R各2本の耕うん爪を取付けてください。

取付け基準穴のところに、L爪をフランジの右側に取付けます。その他の爪は、L-R、L-Rの順番になるように取付けます。

取扱上の注意

- 爪を取付けるときは、フランジの左右に注意してください。
R爪、L爪各1本を1組とし、1組はフランジの左側に、もう1組は右側面に取付けてください。



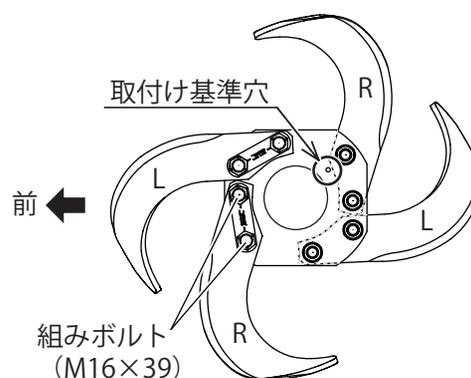
■ 右半分の取付け方法

各フランジにL・R各2本の耕うん爪を取付けてください。

取付け基準穴のところに、R爪をフランジの右側に取付けます。その他の爪は、R-L、R-Lの順番になるように取付けます。

取扱上の注意

- 爪を取付けるときは、フランジの左右に注意してください。
R爪、L爪各1本を1組とし、1組はフランジの左側に、もう1組は右側面に取付けてください。



保守・点検

作業機本来の性能を、十分にまた長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。また、故障を未然に防ぐため、作業機の状態を常に知っておくことも大切です。

注意事項

⚠ 危険

! 作業機をトラクタに装着して点検を行う場合は、トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

! 作業機を地面に降ろしてから行ってください。

必ず実行

作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

! 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行

* ケガにつながる恐れがあります。

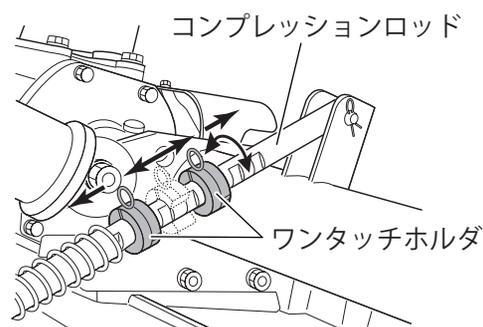
保守・点検の準備

トラクタに装着しての場合

- 1 トラクタを平坦な広い場所に駐車します。
- 2 エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
- 3 作業機を地面に降ろしてから行います。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧ロックを締めます。
- 4 台などを耕うん軸の下に置き、作業機が落下しないようにします。

作業機単体での場合

- 1 作業機を平坦な広い場所に置きます。
- 2 ホイルゲージを接地させ、作業機が転倒しないようにします。
- 3 コンプレッションロッドの一番下の溝に、ワンタッチホルダをセットします。



使
い
か
た

保
守
・
点
検

保守・点検一覧表

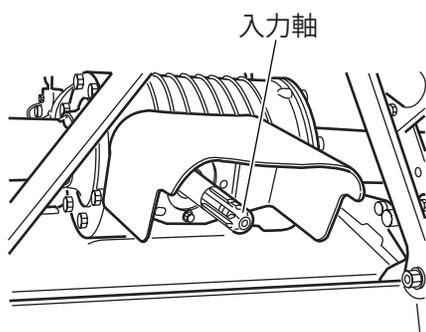
No.	作業項目	周期						参照ページ	
		新品の場合			作業前	作業後	150時間ごと または 1年ごと		随時
		使い始め	1時間 使用后	50時間 使用后					
1	オイル量・オイル漏れの点検 (ギヤケース、チェンケース、 サポートハウジング)	○			○				p.45,46
	オイル交換 (ギヤケース、チェンケース、 サポートハウジング)			○			○		p.46,47
	オイルシール・パッキンの点検 (ギヤケース、チェンケース、 サポートハウジング)						○		p.45,46
2	グリスアップ・塗布								
	① ジョイント								
	(1) グリスニップル				○				p.48
	(2) スプライン				○				p.48
	(3) ノックピン					○			p.48
	(4) シャフト					○			p.48
	② 入力軸					○			p.49
	③ オートヒッチアームのレバー、フック					○			p.49
④ 可動部への注油					○				
3	各ボルト、ナットの点検		○		○	○			p.52
4	ジョイントのノックピンの点検				○				p.52
5	空転による動作確認				○				p.52
6	作業機の水洗い					○			p.49
7	耕うん爪の点検					○			p.49
8	無塗装部へのサビ止め						○		p.50
9	警告表示ラベルの点検						○		p.50
10	消耗部品の早期交換						○		p.50
11	オイルシールの組替え							○	p.50
12	エプロンのはね上げ							○	p.50

作業内容

オイル量・オイル漏れの点検

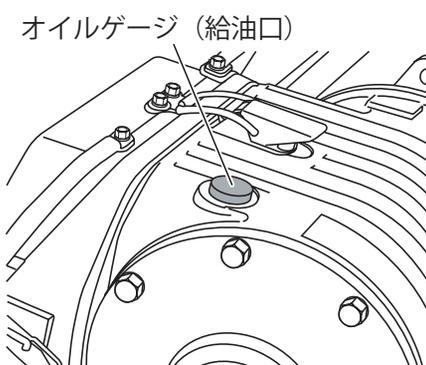
■ 準備

- 1 入力軸を水平にします。



■ ギヤケース

- 1 オイルゲージを抜いてから先端をきれいに拭き、ネジ込まない位置まで再び差込みます。



- 2 ゲージの切り込み線までオイルがあるか確認します。少ない場合は補給します。(ギヤオイル #90)

お知らせ

- ・ 確認後は、オイルゲージをしっかりとネジ込んでください。

- 3 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

⚠ 注意



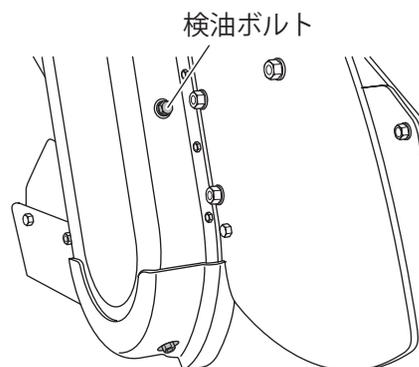
禁止

作業後は手で触れないでください。

* オイル温度が 80 度以上になり、火傷する恐れがあります。

■ チェンケース

- 1 チェンケースの後部にある検油ボルトを緩めます。



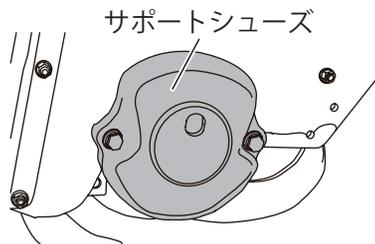
- 2 オイルが検油ボルト面まであるか確認します。少ない場合は、検油ボルト面まで給油口から補給します。(ギヤオイル #90)
- 3 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

使
い
か
た

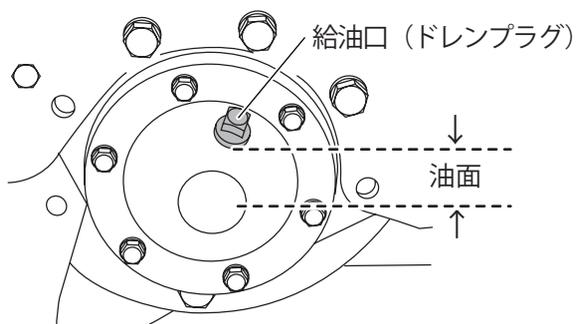
保
守
・
点
検

■ サポートハウジング

- 1 サポートシューズを取外します。



- 2 給油口のドレンプラグを取外します。



- 3 油面が軸心から給油口までの範囲であるか確認します。少ない場合は補給します。(ギヤードイル #90)

- 4 ドレンプラグのネジ部にシールテープを巻きつけ、ドレンプラグを給油口に取付けます。

- 5 サポートシューズを取付けます。

- 6 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

オイルの交換

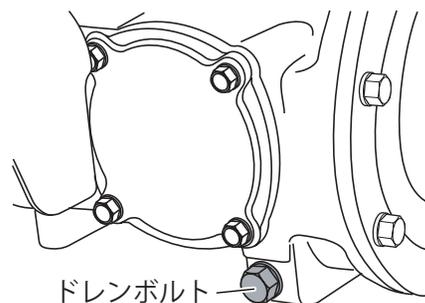
取扱上の注意

- オイルを交換するときは、必ず容器に受けてから行ってください。地面へのたれ流しや川への廃棄は行わないでください。環境汚染につながります。

■ ギヤークース

型式	使用オイル	オイル量
SUV200 ~ 800	ギヤードイル #90	2.5L
SUV300	ギヤードイル #90	5.5L

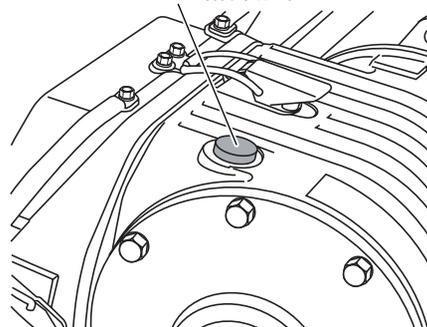
- 1 ドレンボルトを外して古くなったオイルを抜きます。



- 2 古くなったオイルを抜いたら、ドレンボルトを取付けます。

- 3 ギヤードイルを給油口から規定量入れます。

オイルゲージ (給油口)

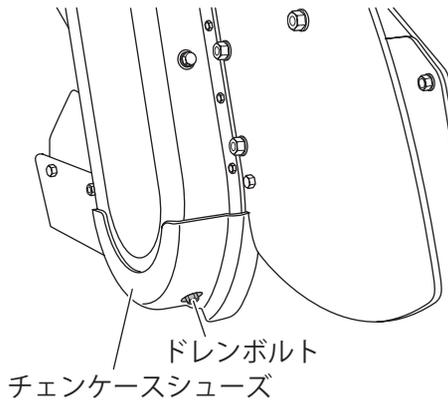


- 4 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

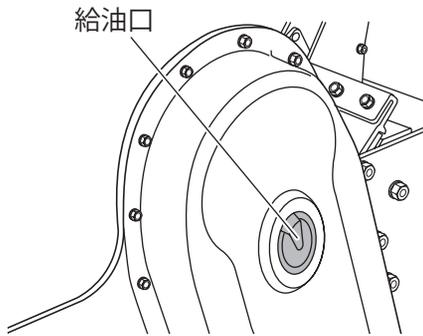
■ チェンケース

使用オイル	ギヤードイル #90
オイル量	3.2L

- 1 チェンケースシューズを取外し、ドレンボルトを外してオイルを抜きます。



- 2 オイルを抜いたら、ドレンボルトとチェンケースシューズを取付けます。
- 3 ギヤードイルを給油口から規定量入れます。

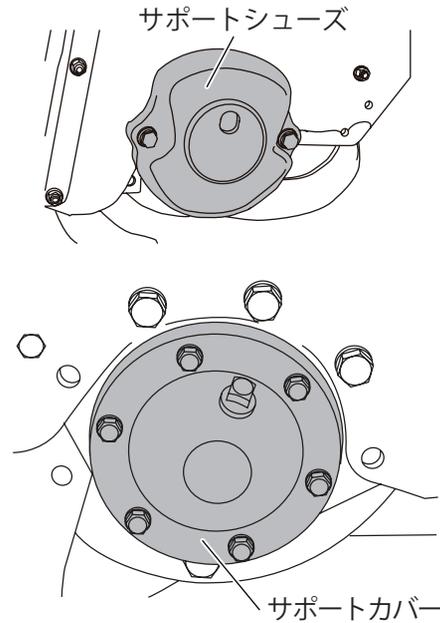


- 4 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

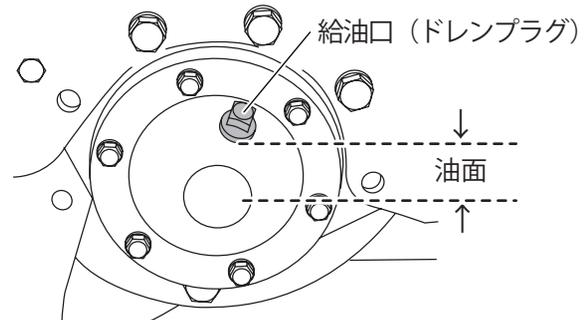
■ サポートハウジング

使用オイル	ギヤードイル #90
オイル量	0.1L

- 1 サポートシューズを取外し、サポートカバーを外してオイルを抜きます。



- 2 オイルを抜いたら、サポートカバーを取付け、ギヤードイルを給油口から規定量入れます。



- 3 ドレンプラグのネジ部にシールテープを巻きつけ、ドレンプラグを給油口に取付けます。
- 4 給油が終わったらサポートシューズを取付けます。
- 5 周囲からオイル漏れがないか確認します。(オイルシール、パッキンなど)

使
い
か
た

保
守
・
点
検

グリスアップ・塗布

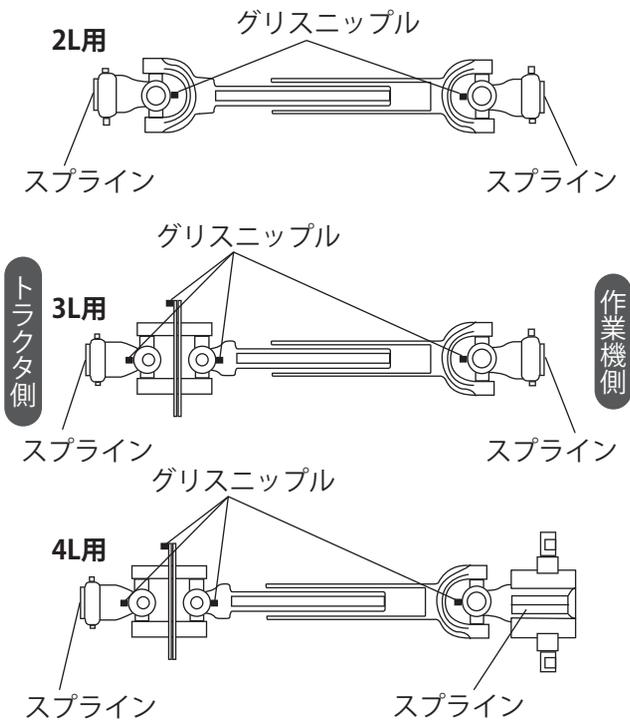
取扱上の注意

- グリスはエピノックグリス AP(N)2(ENEOS(株)) または同等品(リチウムグリス)を使用してください。

■ ジョイント

< 毎作業前 >

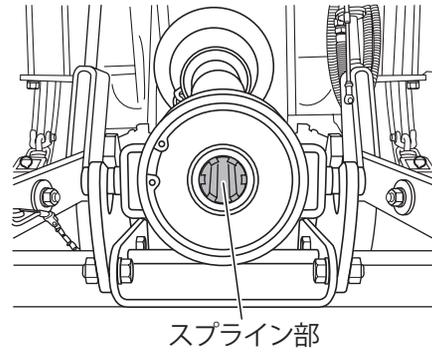
- 1 ジョイントの各部(グリスニップル、スプライン)にグリスアップします。



- 2 スプライン部を掃除しグリスを塗布します。

取扱上の注意

- スプライン部がサビたり傷ついたりすると、装着できなくなります。ゴミがかからないようにしてください。

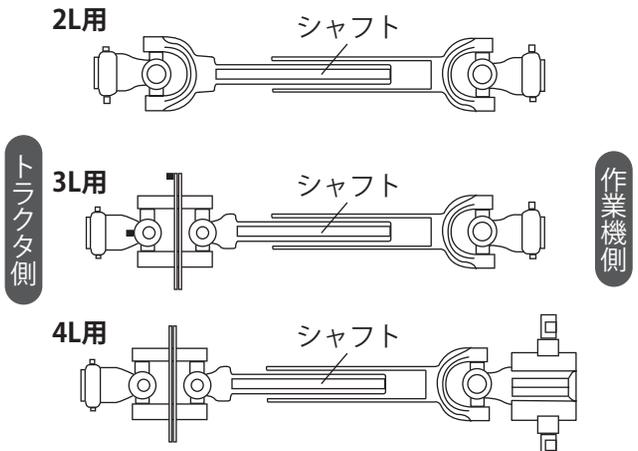


< 毎作業後 >

- 1 ノックピンへ注油します。



- 2 ジョイントのシャフトにグリスを塗布します。

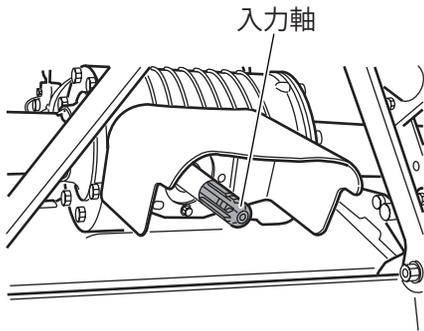


■ 入力軸

- 1 トラクタの PTO 軸と作業機の入力軸にグリスを塗布します。

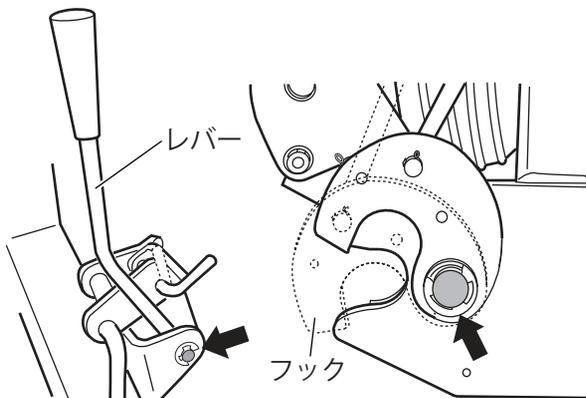
取扱上の注意

- ・ 格納する場合は、保護カバーをかぶせてサビないようにしてください。
次回トラクタに装着の際は、保護カバーを取外してから使用してください。



■ オートヒッチアームのレバー、フック

- 1 オートヒッチアームのレバーとフックの支点部分にオイルを適量塗布します。



作業機の水洗い

作業後には、作業機を水洗いし、ゴミや汚れを取除きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってください。高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注意してください。

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、作業機を破損・損傷・故障させたりすることがあります。高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意



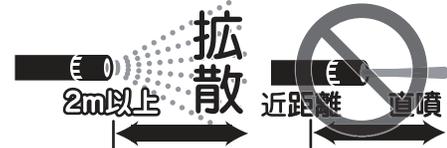
必ず実行

高圧洗車機で水洗いする場合

作業機を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m 以上離して洗車してください。

(例：シール・ラベルの剥がれ、樹脂類（カバーなど）の破損、塗装・メッキ皮膜の剥がれ)

* 直射や不適切に近距離から洗車すると作業機の破損・損傷・故障や事故つながる恐れがあります。



耕うん爪の点検

「耕うん爪の取付け」(→ p.41) に従って、以下のことを確認してください。

- ・ 耕うん爪が摩耗していないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

使いかた

保守・点検

無塗装部へのサビ止め

無塗装部へのサビ止めを行ってください。

警告表示ラベルの点検

「警告表示ラベルの種類と位置」(→ p.10) に従って、警告表示ラベルを点検してください。

- ・ 警告表示ラベルが損傷したり破損したりしていないか。
- ・ 警告表示ラベルが汚れていないか。
- ・ 警告表示ラベルが剥がれていないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

消耗品の早期交換

「消耗品一覧」(→ p.53) に記載の消耗品を点検してください。

必要に応じて、新しいものと交換してください。
早期の交換をお勧めします。

オイルシールの組替え

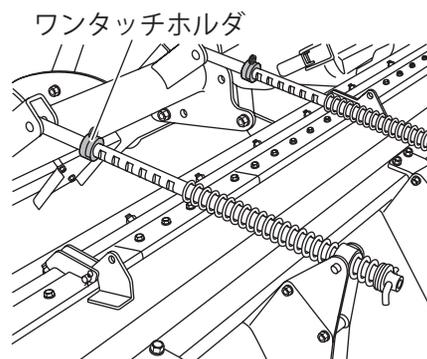
整備などの目的でチェーンケースなどを分解する場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付き座金パッキンと交換してください。

新しいオイルシール、ゴム付き座金パッキンに交換しないと、オイル漏れの原因になります。

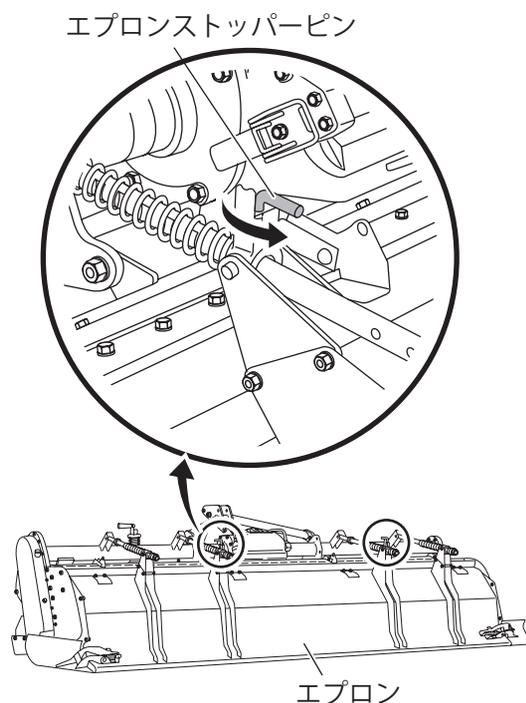
エプロンのはね上げ

エプロンをはね上げて爪交換などの保守・点検作業をするとき、ワンタッチでエプロンをはね上げ自動ロックにすることができます。

- 1 全てのワンタッチホルダを最上位置まで上げます。



- 2 エプロンストッパーピン (2か所) を図のようにロック位置へセットします。



3 エプロンを持ち上げます。

⇒ エプロンストッパーピンが上向穴に入り、自動でロックされます。

取扱上の注意

- ・ オート金具を装備しているときは、リンクしている部品を取外してください。

⚠ 注意

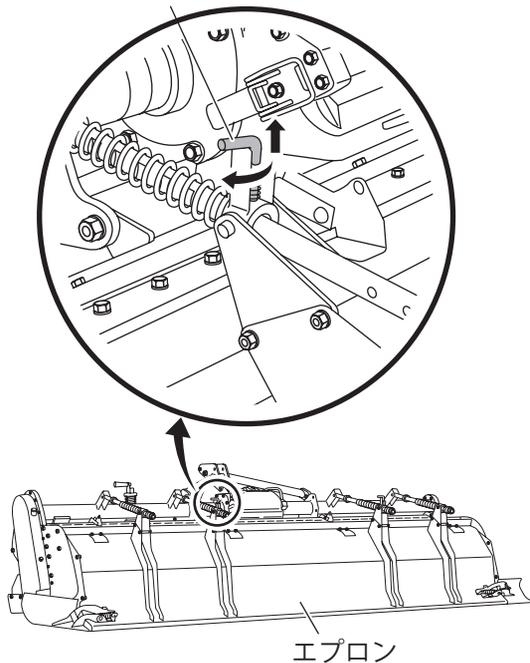


ストッパーピンが2か所とも、ロックされていることを確認してください。

必ず実行 * ロックが不完全な場合、エプロンが落下してケガをする恐れがあります。

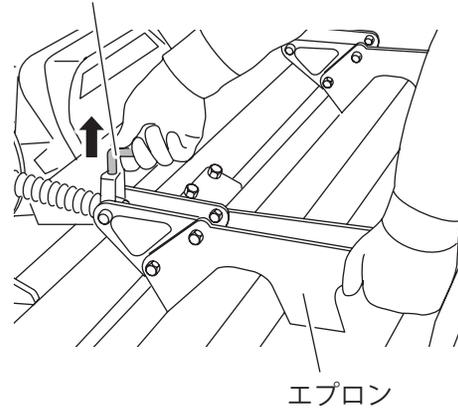
4 エプロンを下ろすときは、2か所のエプロンストッパーピンのうち、どちらか片方を引き上げて解除し、図の位置で固定します。

エプロンストッパーピン (片方のみ解除)



5 エプロンをしっかり支えて、もう片方のエプロンストッパーピンを引き上げながら、エプロンをゆっくりと下ろします。

エプロンストッパーピン



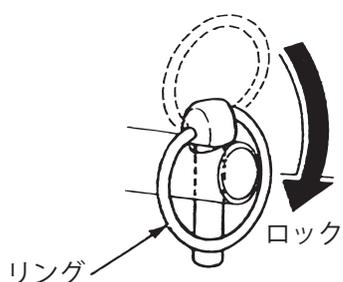
取扱上の注意

- ・ エプロンをエプロンストッパーピンではね上げた状態で、耕うん作業・路上走行・トラクタとの着脱作業を行わないでください。作業機が破損する恐れがあります。

各部のボルト・ナットの点検

以下のことを確認してください。

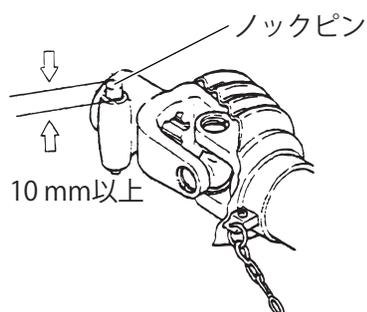
- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか。
増し締めしながら点検してください。
(特に、耕うん爪取付けボルトやマスト取付けボルトは緩みやすいため、点検が必要です。)
- ピン類が全てそろっているか。
- リンチピンのリングが確実にロックされているか。



ジョイントのノックピンの点検

トラクタ側と作業機側のノックピンについて、以下のことを確認してください。

- ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



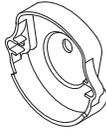
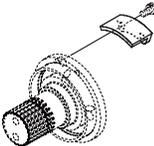
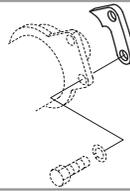
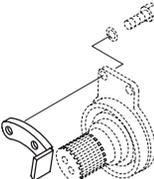
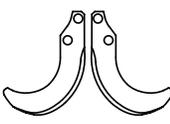
空転による動作確認

空転させ、各部から異音・異常振動などの異常が発生していないことを確認してください。

消耗品一覽

消耗部品は早めの交換をお勧めします。

当社では、お客様にご迷惑がからないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合がございます。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をしていただき、早めの交換をお勧めします。1台分の個数の記入のないものは「耕うん爪の取付け」(→ p.41 ~ 42) を参照してください。

	部品名	チェーンケースシューズキット B	部品コード	5630650	1台分個数	1		
	備考	各型式共通 チェーンケースシューズと取付けボルトのセット						
	部品名	サポートシューズキット	部品コード	5630651	1台分個数	1		
	備考	各型式共通 サポートシューズと取付けボルトのセット						
	部品名	クミボルト ASSY M16 × 39	セットコード	0050057				
	備考	耕うん軸中央部の耕うん爪取付け用						
	部品名	ツメボルト M16 × 37	セットコード	0050048				
	備考	フィードカッタ U、R 取付け用						
	部品名	フィードカッタ	部品コード	6160060				
	備考	耕うん軸フランジに取付け用 (草ワラ巻付き防止)						
	部品名	フィードカッタ R	部品コード	5630666				
	備考	耕うん軸右端フランジに取付け用 (草ワラ巻付き防止)						
	部品名	フィードカッタ U	部品コード	6160399				
	備考	耕うん軸左端フランジに取付け用 (草ワラ巻付き防止)						
	部品名	コウウンツメ UB2611ZR	単品コード	67511				
		コウウンツメ UB2611ZL		67512				
	耕幅	200	220	240	260	280	300	
	1台分個数	RL 各 22	RL 各 24	RL 各 26	RL 各 28	RL 各 30	RL 各 32	
	爪セットコード	6905S	6906S	6907S	6908S	6909S	6902S	
備考								

使
い
か
た

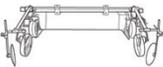
消
耗
品
一
覧

アタッチメント一覧

アタッチメントを下記に示します。

アタッチメントは取付け金具などの関係上、作業機型式を指定の上ご注文ください。

油圧揚力3t未満のトラクタには装着できません。

用途	品名	コード No.	型式	規格 (単位)	適応耕幅	
取付けヒッチ	リヤーヒッチ 	4073034	RH-KR2	60角×207	SUV	
	【仕様】	ハンドル式高さ調整リヤーヒッチ				
マルチ	平畦マルチ 	4072849	RML18X		SUV200,220,240	
	【仕様】	畦幅 70 ~ 150 cm / 畦高さ 5 ~ 10 cm リヤーヒッチ RH-KR2 が必要 (別売)				
カゴローラ (2Lのみ)	ローラキット センター支持タイプ	4072950	CKR-RE25	ローラ幅 246 cm	SUV220	
		4072951	CKR-RE27	ローラ幅 266 cm	SUV240	
		4072952	CKR-RE29	ローラ幅 286 cm	SUV260	
		4072953	CKR-RE31	ローラ幅 306 cm	SUV280	
		4072954	CKR-RE33	ローラ幅 326 cm	SUV300	
	シリンダキット	4072955	CKR-C3			SUV
		【仕様】	油圧上下調整式 / トラクタ外部油圧 (複動) ※オスカプラ 1/2 を標準装備			
	ネジキット	4072571	CKR-N1			SUV
	トリツケカナグ キット 	4072949	CKR-TK2EU			SUV
		注)・トリツケカナグキット (共通) ・ローラキット (幅の選択) ・シリンダキットまたはネジキット (油圧または手動の選択) 計3点のキットが必要です。ご用命の際は、3品ともご注文ください。				
油圧シリンダ 2本タイプ 	4072961	EKR330RE	ローラ幅 326 cm		SUV300	
	【仕様】	油圧上下調整式 / トラクタ外部油圧 (複動) 注) 油圧接続カプラは付属していません。				

保管・格納

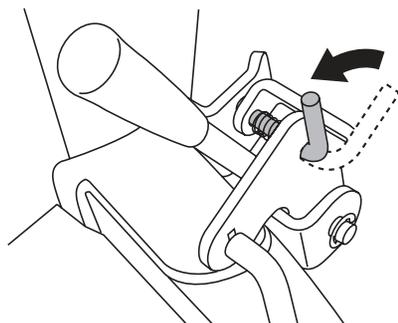
保管・格納するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためにグリスを塗ってください。
保管・格納の際は、以下のことを守ってください。

⚠ 注意

! ジョイントは、必ずチューブのオス側とメス側をいっぱいまで差込んだ状態で保管してください。
必ず実行 * サビついて故障し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

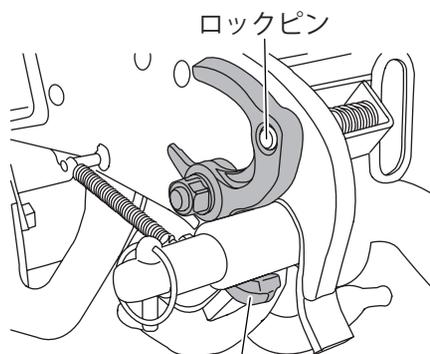
! 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

! オートヒッチを作業機に取付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入し、確実にロックしてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



T-3L、4L

! オートヒッチバーを作業機に取付けて保管する場合は、必ずロックピンが確実にフックに入り込んでロックされているか確認してください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



フック
2L

⚠ 注意

! 雨や風が当たらない、平らで固い場所に格納してください。
必ず実行 * 作業機が転倒し、事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

主要諸元

ここでは各型式の主要諸元を紹介します。

型式		SUV200T-0L	SUV220T-0L	SUV240T-0L	SUV260T-0L
機体寸法	全長 (mm)	1460			
	全幅 (mm) 注1	2235	2435	2635	2835
	全高 (mm)	1110			
機体質量 (kg)		637	671	719	753
適応トラクタ	(kW)	36.8 ~ 73.5	40.4 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5
	(PS)	50 ~ 100	55 ~ 100	70 ~ 100	70 ~ 100
標準耕幅 (cm)		200	220	240	260
標準耕深 (cm)		12 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		1.0 ~ 3.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		14 ~ 40	13 ~ 37	12 ~ 34	11 ~ 31
耕うん爪	本数 (左・右)	22・22	24・24	26・26	28・28
	回転外径 (cm)	52			
	取付け方法	フランジタイプ			
駆動方法		サイドドライブ、チェン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		540			
装着方法		JIS 標準 3P I・II形 カラー (Lヒッチ)		JIS 標準 3P II形 (Lヒッチ)	
耕深調節		前ゲージ輪			

型式		SUV200T-3L	SUV220T-3L	SUV240T-3L	SUV260T-3L
機体寸法	全長 (mm)	1490			
	全幅 (mm) 注1	2235	2435	2635	2835
	全高 (mm)	1360			
機体質量 (kg)		693	727	775	809
適応トラクタ	(kW)	36.8 ~ 73.5	40.4 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5
	(PS)	50 ~ 100	55 ~ 100	70 ~ 100	70 ~ 100
標準耕幅 (cm)		200	220	240	260
標準耕深 (cm)		12 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		1.0 ~ 3.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		14 ~ 40	13 ~ 37	12 ~ 34	11 ~ 31
耕うん爪	本数 (左・右)	22・22	24・24	26・26	28・28
	回転外径 (cm)	52			
	取付け方法	フランジタイプ			
駆動方法		サイドドライブ、チェン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		540			
装着方法		JIS 標準 3P I・II形 カラー (Lヒッチ)		JIS 標準 3P II形 (Lヒッチ)	
耕深調節		前ゲージ輪			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

耕うん作業能率は効率0.8の計算値です。

注1：エクステンションエプロンを閉じた状態の寸法を示しています。

型式		SUV200T-4L	SUV220T-4L	SUV240T-4L	SUV260T-4L
機体寸法	全長 (mm)	1490			
	全幅 (mm) 注1	2235	2435	2635	2835
	全高 (mm)	1360			
機体質量 (kg)		700	734	782	816
適応トラクタ	(kW)	36.8 ~ 73.5	40.4 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5
	(PS)	50 ~ 100	55 ~ 100	70 ~ 100	70 ~ 100
標準耕幅 (cm)		200	220	240	260
標準耕深 (cm)		12 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		1.0 ~ 3.0			
耕うん作業能率 (分/10a)		14 ~ 40	13 ~ 37	12 ~ 34	11 ~ 31
耕うん爪	本数 (左・右)	22・22	24・24	26・26	28・28
	回転外径 (cm)	52			
	取付け方法	フランジタイプ			
駆動方法		サイドドライブ、チェン駆動			
入力軸回転速度 (rpm)		540			
装着方法		JIS 標準 3P I・II形 カラー (Lヒッチ)		JIS 標準 3P II形 (Lヒッチ)	
耕深調節		前ゲージ輪			

型式		SUV200-2L	SUV220-2L	SUV240-2L	SUV260-2L	SUV280-2L
機体寸法	全長 (mm)	1460				
	全幅 (mm) 注1	2235	2435	2635	2835	3035
	全高 (mm)	1065				
機体質量 (kg)		672	706	754	788	821
適応トラクタ	(kW)	36.8 ~ 73.5	40.4 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5	51.5 ~ 73.5	58.8 ~ 73.5
	(PS)	50 ~ 100	55 ~ 100	70 ~ 100	70 ~ 100	80 ~ 100
標準耕幅 (cm)		200	220	240	260	280
標準耕深 (cm)		12 ~ 15				
標準作業速度 (km/h)		1.0 ~ 3.0				
耕うん作業能率 (分/10a)		14 ~ 40	13 ~ 37	12 ~ 34	11 ~ 31	10 ~ 29
耕うん爪	本数 (左・右)	22・22	24・24	26・26	28・28	30・30
	回転外径 (cm)	52				
	取付け方法	フランジタイプ				
駆動方法		サイドドライブ、チェン駆動				
入力軸回転速度 (rpm)		540				
装着方法		標準 3P I・II形 カラー (2点オートヒッチ)		標準 3P II形 (2点オートヒッチ)		
耕深調節		前ゲージ輪				

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1：エクステンションエプロンを閉じた状態の寸法を示しています。

必要に応じて

主要諸元

型式		SUV300-2L
機体寸法	全長 (mm)	1490
	全幅 (mm) 注1	3225
	全高 (mm)	1240
機体質量 (kg)		1049
適応トラクタ	(kW)	73.6 ~ 110.3
	(PS)	100 ~ 150
標準耕幅 (cm)		300
標準耕深 (cm)		12 ~ 15
標準作業速度 (km/h)		2.0 ~ 4.0
耕うん作業能率 (分/10a)		7 ~ 14
耕うん爪	本数 (左・右)	32・32
	回転外径 (cm)	54
	取付け方法	フランジタイプ
駆動方法		サイドドライブ、チェン駆動
入力軸回転速度 (rpm)		1000
装着方法		標準 3P II・III N形カラー (2点オートヒッチ)
耕深調節		前ゲージ輪

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1：エクステンションエプロンを閉じた状態の寸法を示しています。

トラクタ別装着表 0L, 3L, 4L (JIS規格)

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

⚠ 注意



必ず実行

装着表記載の寸法からトップリンク長など変更される場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

* ケガ・破損につながる恐れがあります。



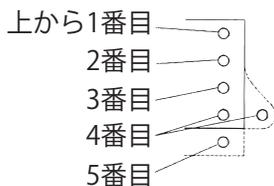
必ず実行

ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・交換などして作業してください。

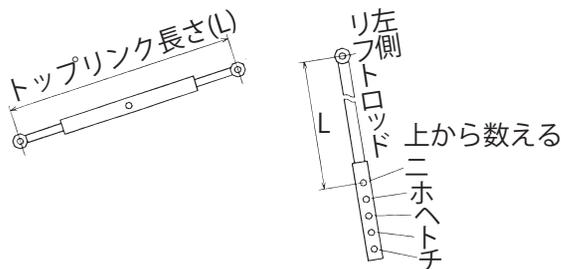
* ケガ・破損につながる恐れがあります。

SUV T-4L/3L 仕様

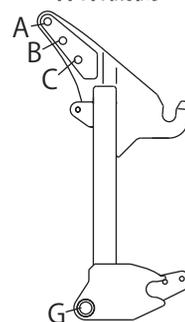
トップリンク取付け穴



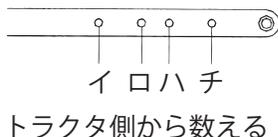
トップリンク・リフトロッド調整



作業機側



ロアリンク取付け穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
MR60・65・70	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き
MR60PC・65PC・70PC	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き
MR800(H)・900(H)・1000(H)	4	イ	へ L=617	610	B	G			モンロ仕様の場合、リフトロッド穴数が左右で異なるので注意のこと (モンロシリンダ側は二穴)

必要に応じて

トラクタ別装着表
0L, 3L, 4L (JIS規格)

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
MR800(H)-PC・ 900(H)-PC・ 1000(H)-PC	4	イ	∧ L=617	610	B	G			モノロ仕様の場合、リフトロッド穴数が左右で異なるので注意のこと（モノロシリンダ側は二穴）
M860W-SE	3	イ	∧ L=617	670	A	G			ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、リフトロッド穴数が左右で異なるので注意のこと（モノロシリンダ側は二穴）
M720W	3	イ	L=480	630	A	G		30	
YT460A・465A	4	イ	ホ	620	B	G			
YT472A	3	イ	ホ	540	B	G		30	要上昇規制
YT465AD・472AD	3	イ	ホ	540	B	G		30	要上昇規制
YT472AC	3	イ	ホ	530	B	G			
YT488A・498A	3	イ	ホ	600	A	G			
YT488AD・498AD	3	イ	ホ	600	A	G			
TJV655・755	3	イ	ホ L=535	550	A	G			TJV755 は ZWX、GWD 型式のみ
TJV655C・755C	3	イ	へ	550	A	G			
TJV755・885	4	イ	ホ L=535	650	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
TJV885C	4	イ	ホ L=535	650	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	
TJX743・873(WX)	3	□	ホ	590	A	G			
TJX743・873 (WX 以外)	4	□	L=570	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチタイプのトップリンク・ロアリンク水平制御なし
GV60・65・70	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向きクボタ OEM MR60・65・70
GVK60・65・70	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向きクボタ OEM MR60PC・65PC・70PC

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
GV800・900・1000	4	イ	∧ L=617	610	B	G			モンロ仕様の場合、 リフトロッド穴数 が左右で異なるの で注意のこと（モン ロシリンダ側は 二穴） クボタ OEM MR800・900・ 1000
GVK800・900・1000	4	イ	∧ L=617	610	B	G			モンロ仕様の場合、 リフトロッド穴数 が左右で異なるの で注意のこと（モン ロシリンダ側は 二穴） クボタ OEM MR800PC・ 900PC・1000PC
MF4506J・4507J	3	イ	ホ L=535	550	A	G			MF4507Jは ZWX、GWD 型式のみ 井関 OEM TJV655・755 (ZWX、GWD 型式のみ)
MF4507J・4508J	4	イ	ホ L=535	650	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	井関 OEM TJV755・885
MF1775M・1785M (WX)	3	口	ホ	590	A	G			井関 OEM TJX743・873 (WX)
MF1775M・1785M (WX 以外)	4	口	L=570	640	A	G	KGC84M に交換	KGC90 に交換	クイックヒッチタ イプのトップリンク ・ロアリンク 水平制御なし 井関 OEM TJX743・873 (WX 以外)
T2.65	4	イ	へ	570	B	G		30	ロアピン内向き クボタ OEM MR65
MF4709	1	イ	L=640	700	B	G			ジョイント異音 時 PTO 切
MF5710	2	イ	L=700	700	A	G			ジョイント異音 時 PTO 切
MF5608・5609	2	イ	L=670	680	A	G			ジョイント異音 時 PTO 切
T4.75	3	イ	L=513	710	C	G			ジョイント異音 時 PTO 切
T4.85・4.95	3	イ	L=650	660	B	G			ジョイント異音 時 PTO 切

必要に応じて

トラクタ別装着表
0L, 3L, 4L (JIS 規格)

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴	4L	3L	
							KGC79M	KGC80	
T5.95	2	イ	L=620	650	B	G			ジョイント異音 時 PTO 切
T4030・4040	2	ロ	L=670	600	A	G		40	
T5050	2	イ	L=595	635	B	G		40	
JD5100R	3	イ	L=740	600	A	G		30	

トラクタ別装着表 2L

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

⚠ 注意



必ず実行

装着表記載の寸法からトップリンク長など変更される場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

* ケガ・破損につながる恐れがあります。



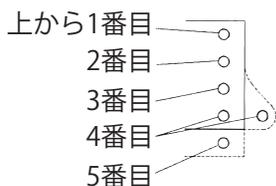
必ず実行

ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・交換などして作業してください。

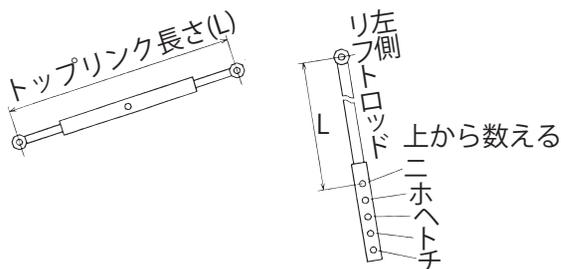
* ケガ・破損につながる恐れがあります。

SUV -2L 仕様

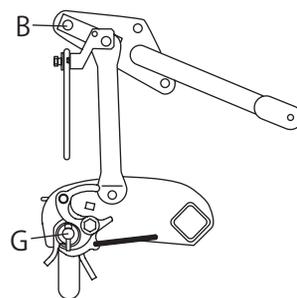
トップリンク取付け穴



トップリンク・リフトロッド調整



作業機側



ロアリンク取付け穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整			作業機側			ジョイント切断寸法 (mm) 2L KG87	備考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴		
	MR60	1	イ	へ	540	B		

必要に応じて

トラクタ別装着表 2L

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
MR65・70	4	イ	へ	500	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンクチェック チェンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形2Lオートヒッチ バーに変更してくだ さい（内ピン取付け）
MR60PC・65PC・70PC	1	イ	へ	540	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンクチェック チェンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形2Lオートヒッチ バーに変更してくだ さい（内ピン取付け）
MR800(H)	2	イ	へ L=617	630	B	G		ジョイント異音時 PTO切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モノロシ リンダ側は二穴）
MR900(H)・1000(H)	4	イ	へ L=617	590	B	G		ジョイント異音時 PTO切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モノロシ リンダ側は二穴）
MR800(H)-PC・ 900(H)-PC・ 1000(H)-PC	2	イ	へ L=617	630	B	G		ジョイント異音時 PTO切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モノロシ リンダ側は二穴）
M100GE	3	□	ホ L=722	680	B	G		ジョイント異音時 PTO切
M860W-SE	2	□	チ L=682	700	B	G		ジョイント異音時 PTO切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モノロシ リンダ側はへ穴）
M720W	1	イ	L=510	660	B	G		ジョイント異音時 PTO切
YT460A・465A	2	イ	ホ	560	B	G		ジョイント異音時 PTO切

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
YT472A	2	イ	ホ	560	B	G		ジョイント異音時 PTO切
YT465AD・472AD	2	イ	ホ	560	B	G		ジョイント異音時 PTO切
YT472AC	2	イ	ニ	530	B	G		ジョイント異音時 PTO切
YT488A・498A	3	イ	ホ	600	B	G		ジョイント異音時 PTO切
YT488AD・498AD	3	イ	ホ	600	B	G		ジョイント異音時 PTO切
TJV655・755	4	イ	ホ L=535	540	B	G		ジョイント異音時 PTO切 TJV755はZWX、 GWD型式のみ
TJV655C・755C	4	イ	へ	540	B	G		ジョイント異音時 PTO切
TJV755・885	4	イ	へ L=575	670	B	G		ジョイント異音時 PTO切
TJV885C	4	イ	へ L=575	670	B	G		ジョイント異音時 PTO切
TJX743・873(WX)	2	イ	ホ	630	B	G		ジョイント異音時 PTO切
TJX743・873 (WX以外)	1	イ	L=550	730	B	G		ジョイント異音時 PTO切 クイックヒッチタイ プのトップリンク・ ロアリンク 水平制御なし
GV60	1	イ	へ	540	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンクチェック チェンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形2Lオートヒッチ バーに変更してくだ さい(内ピン取付け) クボタ OEM MR60
GV65・70	4	イ	へ	500	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンクチェック チェンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形2Lオートヒッチ バーに変更してくだ さい(内ピン取付け) クボタ OEM MR65・70

必要に応じて

トラクタ別装着表2L

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
GVK60・65・70	1	イ	へ	540	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 ロアリンクチェック チェーンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形 2L オートヒッチ バーに変更してくだ さい (内ピン取付け) クボタ OEM MR60PC・65PC・70PC
GV800	2	イ	へ L=617	630	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと (モノシ リンダ側は二穴) クボタ OEM MR800
GV900・1000	4	イ	へ L=617	590	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと (モノシ リンダ側は二穴) クボタ OEM MR900・1000
GVK800・900・1000	2	イ	へ L=617	630	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと (モノシ リンダ側は二穴) クボタ OEM MR800PC・ 900PC・1000PC
GR100F	3	口	ホ L=722	680	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 クボタ OEM M100GE
MF4506J・4507J	4	イ	ホ L=535	540	B	G		ジョイント異音時 PTO 切 MF4507J は ZWX、 GWD 型式のみ 井関 OEM TJV655・755 (ZWX、 GWD 型式のみ)

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
MF4507J・4508J	4	イ	へ L=575	670	B	G		ジョイント異音時 PTO切 井関 OEM TJV755・885
MF1775M・1785M (WX)	2	イ	ホ	630	B	G		ジョイント異音時 PTO切 井関 OEM TJX743・873 (WX)
MF1775M・1785M (WX 以外)	1	イ	L=550	730	B	G		ジョイント異音時 PTO切 クイックヒッチタイ プのトップリンク・ ロアリンク 水平制御なし 井関 OEM TJX743・873 (WX 以外)
T2.65	4	イ	へ	500	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンクチェック チェンと後輪が干渉 しそうな場合、I・ II形 2L オートヒッチ バーに変更してくだ さい (内ピン取付け) クボタ OEM MR65
MF4709	1	イ	L=640	710	B	G		ジョイント異音時 PTO切
MF5710	2	イ	L=695	720	B	G		ジョイント異音時 PTO切
MF5608・5609	2	イ	L=700	720	B	G		ジョイント異音時 PTO切
MF6445・6455	2	イ	L=670	660	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T4.75	3	イ	L=513	700	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T4.85・4.95	3	イ	L=650	720	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T5.95	2	イ	L=620	660	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T4030・4040	1	イ	L=620	700	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T5050	1	イ	L=595	700	B	G		ジョイント異音時 PTO切
T6010Delta	1	イ	L=780	780	B	G		ジョイント異音時 PTO切

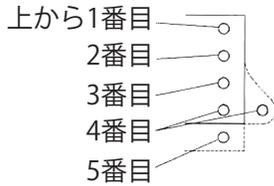
必要に応じて

トラクタ別装着表 2L

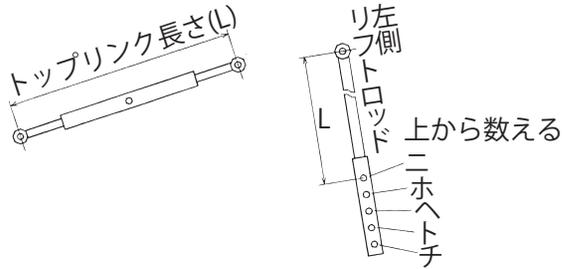
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
	2L		KG87					
JD5100R	3	イ	L=740	650	B	G		ジョイント異音時 PTO切
JD6090MC(～2017)	2	イ	L=740	630	B	G		ジョイント異音時 PTO切

SUV300 -2L 仕様

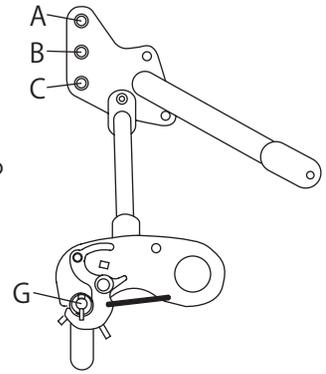
トップリンク取付け穴



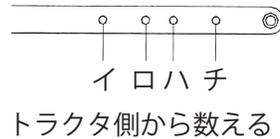
トップリンク・リフトロッド調整



作業機側



ロアリンク取付け穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴		
MR1000(H)・1050H	2	イ	∧ L=617	660	C	G		ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、リフトロッド穴数が左右で異なるので注意のこと (モノシリンドラ側は二穴)
MR1000(H)-PC・1050H-PC	2	イ	∧ L=617	660	C	G		ジョイント異音時 PTO 切 モノロ仕様の場合、リフトロッド穴数が左右で異なるので注意のこと (モノシリンドラ側は二穴)
M100GE・110GE・115GE・125GE・135GE	2	ロ	ホ L=722	710	A	G		ジョイント異音時 PTO 切
M110GE-PC・125GE-PC・135GE-PC	2	ロ	ホ L=722	750	A	G		ジョイント異音時 PTO 切
M1060W	1	ロ	L=575	740	C	G		ジョイント異音時 PTO 切
M7-132	1	イ	L=800	780	A	G		ジョイント異音時 PTO 切
YT4104A	1	イ	ホ	690	C	G		ジョイント異音時 PTO 切

必要に応じて

トラクタ別装着表 2L

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
							SUV300-2L	
						KG87		
YT4104AD	1	イ	ホ	690	C	G		ジョイント異音時 PTO切
YT5113A	2	イ	ニ	740	C	G		ジョイント異音時 PTO切
YT5113AD	2	イ	ニ	740	C	G		ジョイント異音時 PTO切
YT5113AC	1	イ	ニ	710	B	G		ジョイント異音時 PTO切
CT1380	1	イ	ニ	760	B	G	KG97 に交換	ジョイント異音時 PTO切 三菱マヒンドラ農機 OEM GCR1380
TJV985	1	イ	ホ L=535	770	A	G		ジョイント異音時 PTO切
TJV985C	1	イ	ホ L=535	770	A	G		ジョイント異音時 PTO切
TJX973(WX 以外)	1	イ	L=530	760	C	G		ジョイント異音時 PTO切 クイックヒッチタイ プのトップリンク・ ロアリンク 水平制御なし
TJW1153・1233	1	イ	ホ L=565	730	C	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンク最奥の穴 はスタビライザ取付 用(ナロー用)の穴 のため、リフトロッ ド取付位置注意のこ と
TJW1153C・1233C・ 1303C	1	イ	ハ L=610	730	C	G		ジョイント異音時 PTO切 ロアリンク最奥の穴 はスタビライザ取付 用(ナロー用)の穴 のため、リフトロッ ド取付位置注意のこ と
TA-C1130	1	イ	ニ	710	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ヤンマー OEM YT5113AC
TA-C1380	1	イ	ニ	760	B	G	KG97 に交換	ジョイント異音時 PTO切 三菱マヒンドラ農機 OEM GCR1380

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
						KG87		
GV1000	2	イ	∧ L=617	660	C	G		ジョイント異音時 PTO切 モンロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モンロシ リンダ側は二穴） クボタ OEM MR1000
GVK1000	2	イ	∧ L=617	660	C	G		ジョイント異音時 PTO切 モンロ仕様の場合、 リフトロッド穴数が 左右で異なるので注 意のこと（モンロシ リンダ側は二穴） クボタ OEM MR1000PC
GR100F・110F・115F・ 125F・135F	2	口	ホ L=722	710	A	G		ジョイント異音時 PTO切 クボタ OEM M100GE・110GE・ 115GE・125GE・ 135GE
GCR1130	1	イ	ニ	710	B	G		ジョイント異音時 PTO切 ヤンマー OEM YT5113AC
GCR1380	1	イ	ニ	760	B	G	KG97 に交換	ジョイント異音時 PTO切
MF4509J	1	イ	ホ L=535	770	A	G		ジョイント異音時 PTO切 井関 OEM TJV985
MF1795M(WX 以外)	1	イ	L=530	760	C	G		ジョイント異音時 PTO切 クイックヒッチタイ プのトップリンク・ ロアリンク 水平制御なし 井関 OEM TJX973 (WX 以外)
MF5710	1	イ	L=695	770	B	G		ジョイント異音時 PTO切
MF5711SL・5713SL	2	イ	L=700	770	B	G		ジョイント異音時 PTO切 トップリンク最伸な ので注意
MF5610	1	イ	L=680	770	A	G		ジョイント異音時 PTO切

必要に応じて

トラクタ別装着表 2L

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm) SUV300-2L KG87	備考
	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付け穴	ヒッチ ピン 取付け穴		
	MF6612・6613	1	イ	L=715	710	A		
MF6460・6470	1	イ	L=670	680	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
MF6465・6475・6480	1	イ	L=720	740	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
MF6485	2	イ	L=900	810	C	G	ジョイント異音時 PTO切	
MF7465・7475・7480	2	イ	L=690	810	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
MF7485	1	イ	L=700	870	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
T4.105・4.115	1	イ	L=650	750	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
T5.105・5.115	1	イ	L=620	710	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
T6.140	1	□	L=800	800	C	G	ジョイント異音時 PTO切	
T5060・5070	1	イ	L=595	710	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
T6015Delta・6030Delta T6050Delta・6070Delta	1	□	L=760	800	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
T6020Elite・T6060Elite T6030Plus・T6070Plus	1	□	L=830	800	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
JD6105R・6115R・ 6125R(～2017)	1	イ	L=890	750	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
JD6115M・6125M (～2017)	2	イ	L=700	660	A	G	ジョイント異音時 PTO切	
JD6130M・6140M (～2017)	1	イ	L=940	700	B	G	ジョイント異音時 PTO切	
JD6100MC・6110MC (～2017) JD6100RC・6110RC (～2017)	1	イ	L=740	660	B	G	ジョイント異音時 PTO切	

フロントウエイト装着表

このフロントウエイト装着表は、作業性能を発揮するための必要ウエイト量を示します。
 作業機を装着して道路走行する際は、表示のウエイト以上に必要な場合がありますので注意してください。
 作業機を装着して道路走行する場合のウエイト量は下記ホームページより確認してください。

一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページアドレス <http://www.jfmma.or.jp/>

下表には作業性能に必要なフロントウエイト枚数を示しています。
 また、"-" はフロントウエイト不要、グレー部は適用外を示します。
 トラクタメーカーによってはバランス基準が異なりますので、必ず下記の適正フロントウエイト重量を搭載してください。
 トラクタ型式によっては、オプションウエイト台が必要になります。詳しくはお買い求めの販売店へお問い合わせください。

T-0L/3L/4L

トラクタ型式 KUBOTA	MR								M	
	60・65	70	60PC・ 65PC	70PC	800(H)	900(H)・ 1000(H)	800(H)- PC	900(H)- PC・ 1000(H)- PC	720W	860W- SE
200	80 kg ※ 1	80 kg ※ 1	130 kg ※ 1	130 kg ※ 1						
220	80 kg ※ 1	80 kg ※ 1	180 kg ※ 1	180 kg ※ 1	-		45 kgx4		45 kgx4	
240		130 kg ※ 1		210 kg ※ 1	-	-	45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4
260		130 kg ※ 1		230 kg ※ 1	-	-	45 kgx4	45 kgx4	×	45 kgx4

※ 1：様々なフロントウエイト台種類があるため、フロントウエイト台とフロントウエイトの総重量を示します。
 (板金製フロントウエイト台：30 kg/ 鋳物製フロントウエイト台：80 kg どちらかを考慮のこと)

トラクタ型式 YANMAR	YT							
	460A・ 465A	472A	465AD	472AD	472AC	488A	498A	488AD・ 498AD
200	30 kgx7		50 kgx6					
220	30 kgx8	30 kgx8(9) ※ 2	50 kgx6	50 kgx6	50 kgx6 ※ 3			
240		30 kgx9(10) ※ 2		50 kgx6	50 kgx8 ※ 3	50 kgx4	50 kgx4	50 kgx4
260		50 kgx6 (30 kgx10) ※ 2,3		50 kgx8	50 kgx8 ※ 3	50 kgx4(6) ※ 2	50 kgx4	50 kgx6

※ 2：ロプス仕様の場合は、()内のフロントウエイト枚数を装着のこと
 ※ 3：フロントウエイト台をオプションのウエイト台（最大 50 kgx10 枚搭載）に変更のこと

必要に応じて

フロントウエイト
装着表

トラクタ型式 ISEKI	TJV							TJX			
	655	755	655C	755C	755 (ZLWX/ GLWX)	885	885C	743 (WX)	873 (WX)	743(WX 以外)	873 (WX 以 外)
200	-		45 kgx1								
220	-	-	45 kgx1	45 kgx1	-			-		-	
240		45 kgx1		45 kgx2	-	-	-	45 kgx1	-	45 kgx1(1) ※ 2	45 kgx0(1) ※ 2
260		45 kgx2		45 kgx3	-	-	-	45 kgx1	-	45 kgx2(2) ※ 2	45 kgx1(1) ※ 2

※ 2：ロプス仕様の場合は、()内のフロントウエイト枚数を装着のこと

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA	GV				GVK			
	60・65	70	800	900・1000	60・65	70	800	900・1000
200	80 kg ※ 1	80 kg ※ 1			130 kg ※ 1	130 kg ※ 1		
220	80 kg ※ 1	80 kg ※ 1	-		180 kg ※ 1	180 kg ※ 1	45 kgx4	
240		130 kg ※ 1	-	-		210 kg ※ 1	45 kgx4	45 kgx4
260		130 kg ※ 1	-	-		230 kg ※ 1	45 kgx4	45 kgx4

※ 1：様々なフロントウエイト台種類があるため、フロントウエイト台とフロントウエイトの総重量を示します。
(板金製フロントウエイト台：30 kg/ 鋳物製フロントウエイト台：80 kg どちらかを考慮のこと)

2L

トラクタ型式 KUBOTA	MR												
	60	65	70	60PC・ 65PC	70PC	800(H)	900(H)	1000(H)	1050H	800(H)- PC	900(H)- PC	1000(H)- PC	1050H- PC
200	30 kg ※ 1	30 kg ※ 1	-	130 kg ※ 1	130 kg ※ 1								
220	80 kg ※ 1	30 kg ※ 1	30 kg ※ 1	130 kg ※ 1	130 kg ※ 1	-				45 kgx4			
240			80 kg ※ 1		180 kg ※ 1	-	-	-		45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4	
260			130 kg ※ 1		210 kg ※ 1	-	-	-		45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4	
280						45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4		45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4	
300								45 kgx6(4) ※ 4	45 kgx4			45 kgx8	45 kgx8

※ 1：様々なフロントウエイト台種類があるため、フロントウエイト台とフロントウエイトの総重量を示します。
(板金製フロントウエイト台：30 kg/ 鋳物製フロントウエイト台：80 kg どちらかを考慮のこと)

※ 4：KVT 仕様の場合は、()内のフロントウエイト枚数を装着のこと

トラクタ型式 KUBOTA	M							M7
	100GE・ 110GE・ 115GE・ 125GE・ 135GE	110GE-PC	125GE-PC・ 135GE-PC	720W	860W-SE	1010W-SE	1060W	132
200								
220				45 kgx4				
240				45 kgx4	45 kgx4			
260				揚力不足	45 kgx4			
280					45 kgx4			
300	-	45 kgx6	45 kgx4			×	45 kgx6	-

トラクタ型式 YANMAR	YT												CT	
	460A・ 465A	472A	465AD	472AD	472AC	488A	498A	4104A	488AD・ 498AD	4104AD	5113A	5113AD	5113AC	1380
200	30 kgx7		50 kgx6											
220	30 kgx8	30 kg x7(8) ※ 2	50 kgx6	50 kgx6	50 kgx6 ※ 3									
240		30 kg x8(9) ※ 2		50 kgx6	50 kgx6 ※ 3	50 kgx4	50 kgx4		50 kgx4					
260		30 kg x9(10) ※ 2		50 kgx8	50 kgx8 ※ 3	50 kg x4(6) ※ 2	50 kgx4		50 kgx6					
280						50 kgx6	50 kgx4		50 kgx6					
300								50 kgx8		50 kgx10	50 kgx8	50 kgx8	50 kgx10	30 kgx3

※ 2：ロプス仕様の場合は、()内のフロントウエイト枚数を装着のこと

※ 3：フロントウエイト台をオプションのウエイト台（最大 50 kgx10 枚搭載）に変更のこと

トラクタ型式 ISEKI	TJV								
	655	755	655C	755C	755 (ZLWX/ GLWX)	885	985	885C	985C
200	-		45 kgx1						
220	-	-	45 kgx1	45 kgx1	-				
240		45 kgx1		45 kgx2	-	-		-	
260		45 kgx2		45 kgx3	-	-		-	

必要に応じて

装着表
フロントウエイト

トラクタ型式 ISEKI	TJV								
	655	755	655C	755C	755 (ZLWX/ GLWX)	885	985	885C	985C
280						-		45 kgx1	
300							45 kgx3		45 kgx5

トラクタ型式 ISEKI	TJX						TJW		TA-C	
	743(WX)	873(WX)	973(WX)	743 (WX以外)	873 (WX以外)	973 (WX以外)	1153・ 1233	1153C・ 1233C・ 1303C	1153	1380
200										
220	-			-						
240	45 kgx1	-		45 kgx1(1) ※ 2	45 kgx0(1) ※ 2					
260	45 kgx1	-		45 kgx2(2) ※ 2	45 kgx1(1) ※ 2					
280		45 kgx1			45 kgx1(2) ※ 2					
300			×			45 kgx6(6) ※ 2	-	45 kgx3	50 kgx10	30 kgx3

※ 2：ロプス仕様の場合は、()内のフロントウエイト枚数を装着のこと

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA	GV					
	60	65	70	800	900	1000
200	30 kg ※ 1	30 kg ※ 1	-			
220	80 kg ※ 1	30 kg ※ 1	30 kg ※ 1	-		
240			80 kg ※ 1	-	-	-
260			130 kg ※ 1	-	-	-
280				45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4
300						45 kgx6

※ 1：様々なフロントウエイト台種類があるため、フロントウエイト台とフロントウエイトの総重量を示します。
(板金製フロントウエイト台：30 kg/ 鋳物製フロントウエイト台：80 kg どちらかを考慮のこと)

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA	GVK					GR	GCR	
	60・65	70	800	900	1000	100F・110F・ 115F・125F・ 135F	1130	1380
200	130 kg ※ 1	130 kg ※ 1						

トラクタ型式 MITSUBISHI MAHINDRA	GVK					GR	GCR	
	60・65	70	800	900	1000	100F・110F・ 115F・125F・ 135F	1130	1380
220	130 kg ※ 1	130 kg ※ 1	45 kgx4					
240		180 kg ※ 1	45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4			
260		210 kg ※ 1	45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4			
280			45 kgx4	45 kgx4	45 kgx4			
300					45 kgx8	-	50 kgx10	30 kgx3

※ 1：様々なフロントウエイト台種類があるため、フロントウエイト台とフロントウエイトの総重量を示します。
 (板金製フロントウエイト台：30 kg/ 鋳物製フロントウエイト台：80 kg どちらかを考慮のこと)

必要に応じて

フロントウエイト
装着表

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤケース	異音の発生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ピニオンギヤとベベルギヤをセットで交換
		ギヤ同士の噛み合い不良	シムで調節
	オイル漏れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換 (→ p.50)
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		ケース取付けボルトの緩み	ボルト増し締め (→ p.52)
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給 (→ p.45、46)
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕深が深く、車速が速いなど負荷が大きい	耕深を浅く、車速を遅くする
チェンケース	異音の発生	チェンの破損	チェン交換
		テンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オイル漏れ	パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
		ケース取付けボルトの緩み	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給 (→ p.45、46)
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕深が深く、車速が速いなど負荷が大きい	耕深を浅く、車速を遅くする
フレーム	エプロン作動不良	エプロンヒンジ部のセンターが出ていない	ボルトを緩めて調節
		可動部グリス切れ	グリス塗布
	エプロンストッパーピンの破損	エプロンをはね上げロック状態にしたままでの耕うん作業・路上走行	エプロンストッパーピンの交換
	コンプレッションロッドの曲がり		コンプレッションロッドの交換

本体各部	症 状	原 因	対 策
耕うん軸	異音の発生	軸受け部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取付けボルトの緩み	ボルト締付け
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換 (→ p.41)
	振動の発生	耕うん軸の曲がり	耕うん軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草などのかかり	ワラ、草などの除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検 (→ p.41)
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤの破損	ギヤ交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷	軸付きシールの交換
		パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残耕の発生	耕うん爪の摩耗、折損	耕うん爪交換 (→ p.41)
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検 (→ p.41)
異常な土寄りの発生	耕うん爪の配列不良	爪配列の点検 (→ p.41)	
ジョイント	異音の発生	グリス切れ	グリスアップ (→ p.48)
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正 (→ p.24、31)
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわみ発生	シャフトの噛み合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰されることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置は、適切な処理をしてください。

注意事項

本作業機やその保守時に発生する廃棄物の処分は、国、または地方行政の法令の規制対象となるものがあります。

廃棄する際は、国または地方行政の法令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてください。

⚠ 注意



必ず実行

本作業機やその保守時に発生した廃棄物を廃棄するときは、国または地方行政の法令に従ってください。

* 間違った廃棄を行うと、作業機からオイルが漏れ、川・海に流れだし汚染することがあります。

用語解説

ここでは用語について解説します。

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

ワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

ロアリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアリンクと連結しているアーム

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

MEMO

必ずお念のため

用語解説
廃棄について

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

- | | | | |
|---------|-----------|-----------------------|------------------|
| ■北海道営業所 | 〒071-1248 | 北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番 | ☎ (0166) 49-0070 |
| ■東北営業所 | 〒024-0004 | 岩手県北上市村崎野13地割35-1 | ☎ (0197) 71-1160 |
| ■関東営業所 | 〒321-3325 | 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1 | ☎ (028) 687-1600 |
| ■岡山営業所 | 〒701-0165 | 岡山市北区大内田727 | ☎ (086) 250-1833 |
| ■九州営業所 | 〒861-2236 | 熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F | ☎ (096) 286-0202 |